

図書館 雑誌 The Library Journal 2023 6 Vol.117 No.6

●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

宇野亮一（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

Nationaal Museum van Wereldculturen

百猫伝手綱染分

「小笹の方 猫の精 坂東彦三郎」〔由留木の

公達 友千代 坂東団弥〕（部分）

国周画

1864（元治元）年

[https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-](https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-big.php?fl=RV-1455-10b&fl1=1&enter=portal)

[big.php?fl=RV-1455-10b&fl1=1&enter=port](https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-big.php?fl=RV-1455-10b&fl1=1&enter=portal)

al 〈ARC 浮世絵ポータルデータベース〉



VOL.117 NO.6 CONTENTS

窓 ● アンケート ————— 村上健治 320

こらむ図書館の自由 ●

戦争に向きあう図書館 ————— 熊野清子 323

● NEWS ————— 321

告知板 … 322／新聞切抜帳 … 325

● 新館紹介 ————— 327

*

*

*

〔特集〕

既存図書館のリニューアル

既存図書館のリニューアルについて ————— 中井孝幸 329

公立図書館のリニューアルと公共施設等総合管理計画 ——— 松本直樹 334

我孫子市民図書館の施設整備－長寿命化計画策定とその後の進行について

————— 穂村喜代子 338

松阪市松坂図書館 リニューアルへの取り組み ————— 松岡美佳 341

杉並区立中央図書館のリニューアルへの取り組み ————— 三浦源樹 344

*

*

*

ユネスコ公共図書館宣言2022

————— 長倉美恵子・永田治樹・日本図書館協会国際交流事業委員会訳 347

霞が関だより ● 第235回

子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰を開催しました。

————— 文部科学省 350

IFLA ロッテルダム大会へのおさそい ● ①

オランダ公共図書館－図書館カードさえあれば社会とつながれる

————— 吉田右子 353

ウチの図書館お宝紹介！●第232回／愛媛大学図書館

「愛媛大学鈴鹿文庫」について ———— 上山朋子 354

図書館員のおすすめ本●㉘

子どもの文化人類学 ———— 小野寺千秋 356

多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。 ———— 笠川昭治 356

本屋で待つ ———— 矢野亜希子 357

カンマの女王 ———— 高橋茉由理 357

声ー各地の代議員から●㉔

一歩踏み出す ———— 石川靖子 358

小さな声から変化を ———— 三田祐子 358

小規模図書館奮戦記●その302／三重県・木曽岬町立図書館

図書館が紡ぐ人と人との三つの「わ」ー「輪・和・話」の醸成を目指して

————— 諸戸勝己 359

図書館員の本棚●

小さなまちの奇跡の図書館 ———— 嶋田 学 360

*

*

*

●The Library Journal, June 2023

Special feature: Renovation of existing library facilities

Renovation of existing library facilities (NAKAI Takayuki) 329*Renovation of public libraries and comprehensive management planning for public facilities* (MATSUMOTO Naoki) 334*Facility management at the Abiko City Library – Extended lifespan planning and subsequent progress* (AKIMURA Kiyoko) 338*Renovating the Matsusaka City Matsusaka Library* (MATSUOKA Mika) 341*Renovating the Suginami City Central Library* (MIURA Motoki) 344

●日図協図書館新着案内 ———— 362

●協会通信 ———— 370

事務局カレンダー 375

●編集手帳 ———— 376

*「れふあれんす三題噺」は休載させていただきます。

●図書館雑誌7月号予告 ———— 376

●発行者

公益社団法人日本図書館協会©2023
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電 話 (03)3523-0811 〈代表〉

直 通 (03)3523-0816 〈編集部〉

F A X (03)3523-0841 〈代表〉

〈日図協ホームページURL〉

<https://www.jla.or.jp>

〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉

mailmaga@jla.or.jp

*本文は中性紙（冷水抽出pH8.1）を使用



アンケート

村上健治

図書館利用者のアンケート調査をおこなった。アンケートというと、図書館の入口で入館してくる学生にひたすらアンケート用紙を配っていたことを思い出す。入口にアンケート用紙を積んでおいただけではほとんど回答してもらえない。十数年ほど前からはウェブフォームからも回答してもらえようになったが、その頃も紙に記入した回答の方が多かった。紙に書かれた回答を表計算ソフトに入力していくのは大変だったが、入力してしまえば後は楽だった。今は紙を配ることはなくなり、ウェブフォームから回答してもらっている。データの取得はとても楽になった。

図書館の利用者を増やすためには、図書館を利用する人の意見の他にあまり図書館を利用しない人の要望も調べないといけない。紙でアンケート用紙を配布していた頃は、図書館に来る人にしか渡せないのが、教員の協力を得て授業等で配布・回収してもらったこともあった。今はウェブサイト等で周知するようになったが、回答結果を見ると当たり前ながら日頃から図書館を使っている人の回答が多い。在校生数から計算した回答率は残

念ながらそれほど大きな数字ではない。

図書館に来館する学生が図書館に対して求めるものは、以前に比べると多様になった。私が就職した頃はグループ学習室やラーニングコモンズ、蔵書検索システムといったものはなかった。業務の電算化に伴い図書館ができることは増えた。図書館という場所に対する考え方も変わった。そして、利用者の要望は今後に変化していくだろう。伝統的な図書館サービスに加えて、新たな図書館サービスをしっかりと提供していくことが必要だ。

アンケートの集計結果を見ていくとさまざまな気づきが得られる。日頃の業務で見落としがちな点、考えてもみなかったことを利用者目線で指摘してもらえる貴重な機会でもある。すべての要望に応えることは難しいが、できるだけ多くの意見に対応していきたい。そのことが利用者の増加に結びつく。アンケートのデータ入力には必要になつたけれども、データを基にして考え、サービス改善につながるヒントを集め、それを地道に積み重ねていくしかないのだと思う。

(むらかみ けんじ／広島大学図書館)

NEWS

▶ 読書バリアフリー法に関する二つの資料を公開

2023年5月2日、日本図書館協会障害者サービス委員会は、読書バリアフリー法に関する二つの資料を公開した。

「地方公共団体において『視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画』を策定するための指針」は、地方自治体に読書バリアフリー計画の策定を促すと共に、今後の改定にあたっての参考となるものである。

「図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）評価シート 公共図書館編」は、図書館の規模ごとに具体的にどのような取り組みが必要かをまとめたものである。

日本図書館協会障害者サービス委員会：<http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/index.html>

地方公共団体において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定するための指針：<http://www.jla.or.jp/library/guideline/tabid/1016/Default.aspx>

図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）評価シート 公共図書館編：<http://www.jla.or.jp/library/guideline/tabid/1015/Default.aspx>

▶ 「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の廃止について

2023年4月27日に新型コロナウイルス感染症対策本部において「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を2023年5月8日に廃止することが決定された。また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上

の位置づけの変更により、感染対策は、政府として一律に求めることはなくなり、「個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとしたもの」となった。

これにより業種別ガイドラインである「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」も廃止となり、今後の感染対策については、日図協 Web サイト「新型コロナウイルス感染症対策」のページに以下のとおり掲載しているので参照いただきたい。

また、不要になった新型コロナウイルス感染症対策のパーティション等備品の扱いについては、以下のとおり環境省の Web サイトに掲載されている。

図書館における新型コロナウイルス感染症の基本的感染対策における今後の考え方について（日本図書館協会）：<https://www.jla.or.jp/home/tabid/853/Default.aspx>

不要になった新型コロナウイルス感染症対策の備品等（パーティション等）について（環境省）：https://www.env.go.jp/recycle/waste/infect_contr.html

▶ 公共図書館部会の行ったアンケート調査について

日本図書館協会公共図書館部会では、2月に都道府県立図書館を通じて、図書の購入等について、市区町村立図書館へのアンケート調査を依頼した。

対象：人口30万人以上の自治体（政令指定都市・東京23区を含む）95自治体

期間：2023年2月7日～2月28日

回答図書館：68館（回答率71.6%）

資料の納入元／入札等頻度／新刊の貸出予約開始ルール／発売日から利用者に提供できるようになるまでの期間／複本購入のルール、などについて聞いている。

調査結果等詳細は、以下の URL を参照。

公共図書館部会 HP：<https://www.jla.or.jp/divisions/koukyo/tabid/272/Default.aspx>

▶ 全国 SLA、「学校図書館整備施策の実施状況（2022年度最終集計）」を公表

4月20日、公益社団法人全国学校図書館協議会（全国 SLA）が、「学校図書館整備施策の実施状況（2022年度最終集計）」を公表した。

2022年6月に全国1,741の市区町村教育委員会を対象にアンケート調査を実施し、1,074の教育委員会から回答が寄せられた（2023年4月12日時点。回収率61.7%）。

発表の中では、以下の項目の結果が紹介されており、市区町村ごとの結果が PDF 形式で公開されている。

- ・2022年度予算における1校当たりの平均図書費と図書費予算額算定方式
- ・「学校図書館用の新聞購読費」の予算化状況
- ・学校図書館の図書の更新のために、利用できない古い図書の廃棄を勧めているか
- ・学校司書配置の予算化状況と雇用形態
- ・自治体による学校図書館担当者の研修状況
- ・2022年度予算において、学校図書館がタブレット端末用の電子書籍を購入するための費用を予算化し

ているか

全国SLA ホームページ：<https://www.j-sla.or.jp/>>お知らせ>2023年04月20日「学校図書館整備施策の実施状況（2022年度最終集計）」

▶国立国会図書館、「フロッピーディスクの長期保存対策に関する調査報告書」を公開

2023年4月18日、国立国会図書館は、劣化が懸念されるフロッピーディスクについて、保存に関する基礎知識、マイグレーションの技術的動向、マイグレーションの手法と実際の手順等をまとめた調査報告書を公開した。

国立国会図書館 HP>新着情報：<https://www.ndl.go.jp/jp/news/index.html> 2023年4月18日『「フロッピーディスクの長期保存対策に関する調査報告書」を公開しました。』
国立国会図書館 HP>資料の保存>電子情報の長期利用保証に関する調査研究（NDL）：<https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/dlib/research.html>

※「調査報告書（令和4年度）」の欄に「フロッピーディスクの長期保存対策に関する調査報告書（令和5年4月）」が掲載されている。

▶第28回「日本絵本賞」受賞作品決定

第28回「日本絵本賞」の最終選考会が4月25日に行われ、4点の受賞作品が以下のとおり決定した。

<受賞作品>

○第28回日本絵本賞大賞

・『PIHOTOK：北極を風と歩く』（荻田泰永／文、井上奈奈／絵、講談社）

○第28回日本絵本賞

・『がっこうにまにあわない』（ザ・キャビンカンパニー／作・絵、あかね書房）

・『ねことことり』（たてのひろし／作、なかの真実／絵、世界文化社）

・『橋の上で』（湯本香樹実／文、酒井駒子／絵、河出書房新社）

「日本絵本賞」は、公益社団法人全国学校図書館協議会（全国SLA）の主催により、絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展に寄与することを目的として、優れた絵本を顕彰するものであり、1995年より実施している。

今回は2022年1月から12月までに刊行された絵本の中から、全国SLA選定委員会で1,019点を選定し、絵本委員会によって選ばれた「最終候補絵本」30点（うち翻訳絵本12点）が対象となった。

受賞した作家、画家には賞状、盾および賞金を、出版社には賞状および盾を贈呈される。

表彰式は6月22日に行われる。

詳細：全国SLA ホームページ：<https://www.j-sla.or.jp/>

▶宮古市災害資料アーカイブ「みやこあす」が公開

3月31日、岩手県宮古市は、宮古市災害資料アーカイブ「みやこあす」として、明治以降の自然災害を対象に、デジタル化した約4万点の資料を公開した。資料は、同市をはじめとする自治体のほか、民間企業等から提供されたものである。

特集コンテンツ「宮古市100有余年の闘いと東日本大震災津波」では過去の津波の経験と教訓がまとめられている。

宮古市災害資料アーカイブ みやこ

あす：<https://miyako-archive.iris.es.tohoku.ac.jp/>

告知板

●つどい

日本図書館協会学校図書館部会
第51回（2023年度）夏季研究集会
（東京大会）

期日：7月28日（金）～29日（土）

会場：日本図書館協会研修室

開催形式：会場参加（申込先着30名）

およびオンライン視聴

テーマ：未定

内容：(1)部会報告「学校図書館をめぐる状況」（堀岡秀清：図書館年鑑編集委員会委員）、(2)講演「学校図書館と探究学習」（本田由紀：東京大学大学院教育学研究科教授）、(3)報告1「学校図書館を知らない司書が学校図書館を作ったら」（湯川康宏：埼玉県立飯能高校すみっコ図書館学校司書）、(4)報告2「社会科の授業づくりで考えていること」（福田恵一：元中学校社会科教諭）、(5)報告3「どうする！これからの学校図書館－宮ノ下っ子を深い学びへと誘う」（武林真理：鳥取市立宮ノ下小学校校長、津村玲子：同学校司書）

申込方法：学校図書館部会 HP の「夏季研参加申込フォーム」にて
申込締切：2023年7月14日（金）24:00

学校図書館部会 HP：<https://www.jla.or.jp/divisions/school/tabid/19/Default.aspx>

◆◆NEWS◆◆

■第26回集会「ひらこう！学校図書館」

主催：学校図書館を考える全国連絡会

日時：7月8日(土) 10:30-16:00

会場：日本図書館協会研修室

(同時にオンライン開催)

内容：記念講演「いま求められる学校図書館専門職員制度－学図法70周年を的確な施策の決断の年に－」(塩見昇：大阪教育大学名誉教授、元日本図書館協合理事長)、問題提起「『学校図書館の現状に関する調査』(平成4年度～令和2年度)結果から」(田中絃一：「本があつて人がいる学校図書館を願う会」代表、学校図書館を考える全国連絡会世話人)、意見交換

参加費：1,000円(事前振込)

定員：会場約60名／オンライン約90名(Zoom使用)

申込締切：6月30日(定員になり次第締切)

申込先等詳細HP：<https://www.open-school-library.jp/>

■講演会・総会同時開催「民主主義を支える図書館＝アメリカのライブラリアンの闘い」

『闘う図書館』(筑摩書房・2022)の著者、豊田恭子さんをお招きして開催します。

主催：東京の図書館をもっとよくする会

日時：2023年7月8日(土) 13:30-15:00

会場予定：国立オリンピック記念青少年総合センター(小田急線参宮橋駅徒歩7分、東京メトロ千代田線代々木公園駅徒歩10分)

参加費：無料

こらむ
図書館の
自由

戦争に向きあう図書館

熊野清子

2022年11月に日本図書館協会で開催された上映会と講演「図書館を知る・学ぶ 図書館と知る自由」に参加した。NHK 長野放送局2018年制作番組「図書館と戦争～図書館長・乙部泉三郎の半生」を視聴し、制作した酒井邦博ディレクターと伊那市創造館の演慎一学芸員の講演を聞いた。同館には旧上伊那図書館が1923(大正12)年に開館する前からの文書が残っており、会場に展示された図書原簿には、発禁本除籍のあとが生々しく刻まれていた。

昭和初期、中央図書館に指定された県立長野図書館の乙部館長は、地域を巡回して農村の青年に読書会を奨励し、「良書」を中央図書館から地域図書館に配った。そして安寧や風俗を乱す本は図書館から締め出され、警察へ自発的に提供した本もあった。戦意高揚を図る政策、思想善導に図書館が大きな役割を果たした。館長は図書館を愛する真面目な人柄で、職務を忠実に遂行しただけかもしれないが…。

ウクライナへのロシア侵攻から1年数か月、停戦への道筋は見えず多くの人が故郷を離れて不安な日々を過ごしている。ウクライナは「脱ロシア化」をすすめ、公共図書館から数百万冊の本を撤去したという。一方、ロシアに連れ去られたウクライナの子どもたちは強制的にロシア語による「愛国教育」を強要されているという。日本でも第二次世界大戦時に敵性語排斥運動で外来語が言い換えられ英語の授業も減らされた。

いま、私たちは同じことをしないと胸を張っていえるだろうか。国が進めたいこと、大きな声で喧伝されることに無批判に従うことはないだろうか。さまざまな考えをもつ人たちの、小さな声をきちんと受け止めて伝えることができるだろうか。図書館のもっとも重要な任務「基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供すること」を果たすことができるだろうか。

今秋の全国図書館大会図書館の自由分科会では、演慎一氏を迎えるほか、明治期からの発禁本を今に伝える三康図書館からの報告、戦後すぐの図書館を知る元図書館の自由に関する調査委員会委員の経験をお話いただく予定である。あらためて戦争と向き合う図書館について考える機会としたいので、多くの参加をお待ちしている。

(くまの きよこ：JLA 図書館の自由委員会)

申込方法：件名に「講演会申込」とした上で、以下申込先までメール送信にて

申込先：松島茂 E-mail: m-siger@mti.biglobe.ne.jp

オンライン配信：検討中(問合先：

ikezawa.nbr.0414@gmail.com)

※詳細は、必ずホームページで確認
願います。https://mottonokai.tok
yo/

■令和5年度資料保存研修

国立国会図書館では、国内の図書館員等を対象に、資料保存に関する基礎的な知識と技術の習得を目的として、以下のとおり資料保存研修を実施します。

主催：国立国会図書館

日時・場所：9月28日(木)、9月29日(金) 9:30-16:30 国立国会図書館東京本館 新館3階大会議室(東京都千代田区永田町1-10-1)

※各日とも同じ内容です。

内容：実習 (1)「無線綴じ本を直す」、(2)「簡易補修」、講義「図書館資料の保存」

持ちもの：えんぴつ、エプロン

参加費：無料

定員：40名(各日20名)

※1機関からのお申込みは1名かつ1回までとし、申込多数の場合は調整させていただきます。

申込方法：国立国会図書館ホームページをご覧ください、参加申込みページからお申し込みください。

ホーム>資料の保存>保存協力>おもな研修会や講演会のテーマ・記録等>令和5年度資料保存研修
https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/cooperation/training_r5.html

※7月11日(火)公開予定です。

申込期間：7月11日(火)10:00-7月28日(金)17:00

問合せ：収集書誌部資料保存課 ☎
03-3506-5219(直通) E-mail: hozonka@ndl.go.jp

全国図書館大会岩手大会

期日：11月16日(木)・17日(金)

※本誌8月号綴込にてご案内

●その他

◆「日図協図書館 OPAC」一般公開のお知らせ

日図協図書館の蔵書を Web 上で検索できる「日図協図書館 OPAC」を5月15日(月)公開いたしました。

日本図書館協会ホームページ「日図協図書館のご案内」を参照のうえ、ぜひご活用ください。

「日図協図書館 OPAC」：<https://jla.opac.jp/opac/Top/>

検索対象は当面「図書」のみですが、雑誌につきましても順次公開していく予定です。

◆「図書館の分類に関する調査(2023)」の実施

日本図書館協会分類委員会は、2008年4月に「図書の分類に関する調査」を全国の公共図書館(3,126館)および大学図書館(短大・高専含む1,660館)を対象に行い、結果を『図書館雑誌』(vol.104, no.3, 2010.3, p.166-169)に掲載した。その後の図書館における分類の状況を把握し、「日本十進分類法(NDC)」の維持管理に役立てるため、2023年7月に標記の調査を実施する。

今回の調査は、各図書館にウェブ・アンケート(Google フォームを使用。またはエクセルの調査票による回答も可)で回答を求め、調査の依頼は、日本図書館協会公共図書館部会、大学図書館部会等の協力を得て、6月下旬にメールで発送する予定。

設問は前回よりも簡便にし、図書

館における分類の使われ方に重点を置く。ご協力をよろしくお願いする。

◆会員ポータルサイトを新設しました

このポータルサイトでは、登録されている会員情報を確認できるほか、『図書館雑誌』送付先の変更を簡単に行えます。

今後はポータルサイトを通じて会員限定のご案内の掲載や、会員限定の交流の場を設けるなど、さらなるサービスの拡充も計画しております。

ログイン情報、操作方法につきましては、会員の皆様に郵送にてお送りしましたご案内をご覧ください。
ポータルサイト URL：<https://jla.smartcore.jp/>

※協会 HP で設置している「会員向けサービス」とは別の URL です。

◆JMLA 認定資格ヘルスサイエンス情報専門員第40回申請

受付期間：2023年7月1日(土)～31日(月)

はじめて申請される方へ：日本医学図書館協会会員以外の方も申請できる／司書資格のない方はご相談を／協会指定の研修会への参加が必要／規定の実務経験が必要／基礎資格のみ申請できる／基礎資格は永年有効

第30回申請で中級・上級を取得された方へ：今回の第40回申請が更新の期限となる。

問合せ先：NPO 法人日本医学図書館協会中央事務局(〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10 和田ビル3階 FAX.03-5577-4510

E-mail: jmlajimu@sirius.ocn.ne.jp)

詳細：<https://jmla1927.org/healthscience.php>

NEWS

新聞切抜帳

●全国

▶[Be between 読者をつくる]図書館を使ってますか? 年齢問わず愛されて (朝日3/25)

▶図書館蔵書「送信」 ページ単価10倍利用者負担 電子メール6月から (読売3/27夕、関連3紙)

▶子どもの読書 バリアフリーに点字書籍や多言語表示整備 政府計画 閣議決定 [第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」] (読売3/28夕、関連1紙)

▶広がる書店の「空白地帯」／減る書店 支援の形はー ネット側に制限案 疑問も 自民[党]に接近 懸念の声 まちづくりの拠点に カフェやコンビニに併設 (朝日4/3)

▶学校図書館 活用の充実に向けて 教育委員会と指導主事がリードする 研修プログラム案を無償公開 全国SLA 必要なテーマから研修を [『学校図書館 いま求められている研修とは』] (教育家庭4/17)

▶図書室ない学校複数 法律では設置義務付け 文[部]科[学]省、実態把握できず (徳島5/5)

●北海道・東北

▶外交官・原敬直筆メモ 盛岡[市]の[岩手県立]図書館 寄贈図書に民権派の議論 批判的論評 (読売4/25)

▶図書館核の複合施設 25年度開設 富谷市、基本設計概要 (河北新報3/16)

▶旧大沼本店跡 図書館など構想浮上 山形市 消防本部庁舎は建替え (建設通信3/22)

▶[JR]山形駅に「本のひろば」 自

由に読んで、借りて [山形市立図書館]で傷み等により貸し出されなくなった本を配置 (読売[山形]4/4)

▶借りたら返せ みんなの本「延滞」悩む[山形]県内の公立図書館

10年以上、紛失、又貸し… 低い利用者の意識 ICタグで管理ー高い導入経費 [南陽市立図書館、山形市立図書館など] (山形4/20)

▶福島大[学]付属図書館の愛称「フクニチャージ図書館」に 福島日産自動車命名権者契約 (福島民報4/13)

●関東

▶最適地は東石川第4公園 ひたちなか市 新中央図書館 28年度供用目指す (建設通信3/14)

▶読みたい本宅配で貸します [茨城]県立図書館 有料サービス開始 (朝日[茨城]4/20)

▶新図書館「夢咲くら館」開館 佐倉[市立佐倉図書館] 子育て、にぎわい創出拠点に 地元高校生が多彩な演出、祝福 (千葉日報3/8)

▶笑顔並ぶ[Book Swap Chofu]川の図書館 コロナきっかけ 13歳で「開館」4度目の春 大切な場所に持ち帰り自由 広がる応援の輪 (毎日3/27)

▶[八王子]医療刑務所跡に公園整備 1世紀超の歴史が転換 八王子駅近く 敷地広大 PFIで26年開業予定 [八王子市 図書館など] (日経[首都圏]3/28)

▶イオン、関東にもアウトレット[ジアウトレット湘南平塚] 神奈川[県]・平塚[市]で28日開業 サッカー充実、サウナ用品も [平塚市図書館と連携して子ども向け図書コーナーを設置] (日経流通4/19)

●甲信越・北陸

▶子育て拠点機能充実 24年度移転予定 さわた図書館 [佐渡]市が素案 蔵書分散に市民懸念も

(新潟日報2/2)

▶2市民グループ[「図書館で佐渡を元気にする会」「さわた図書館応援隊」]が再考求め申し入れ 新[佐渡市立]さわた図書館と子育て施設素案で (新潟日報2/21)

▶広さ4倍以上 [輪島]市が整備 新図書館、旧輪島駅に 老朽化の文化会館 ホール残し解体 検討委[員会]、22日初会合 (北国3/11)

▶夜間営業 4カ月で中止 宝達志水[町]・漫画図書館[宝コミックフィールド] 入館者増加せず 土日祝だけ開放 「いつ開いているのか」 (北国3/22)

▶公民館、図書館一体に [福井県]池田町 今秋から試験運営 [「仮称」図書公民館 ブック アンド コミュニティセンター ツドエル] (福井3/10)

▶ゆかりの著名人が本紹介 [山梨]県立図書館が記念冊子 [「贈る本ーわたしからあなたへー」] (読売[山梨]4/27)

▶読書に親しんだ21人たたえる [長野県富士見町教育]委[員会]「学校図書館読書チャンピオン」表彰式 (長野日報3/2)

▶図書館への関心 料理から [長野県]大桑村[図書館] 体験講座[「もぐもぐリサーチ」]に10人 テーマ変え定期開催へ (市民タイムス[木曽]3/22)

●東海

▶下田市丸ごと「図書館」 カフェやワーケーション施設 一角に蔵書 読書推進 地元歴史知るきっかけも 県外でも取り組み進む [まちじゅう図書館] (静岡4/11)

▶めざせ図書館マスター スタンプラリーで読書喚起 [浜松市立]舞阪図書館 8個集めて“称号”

(静岡4/16)

▶江南[市]の新シンボルに [名鉄]布袋駅に複合施設 図書館など集約 [toko+toko=labo]

(中日〈愛知・尾張〉3/26)

▶民間資金活用 伊賀市の旧庁舎に新図書館 蔵書増 期待 ホテル併設 懸念 ワークショップで意見 基本設計 6月ごろ確定へ

(中日〈三重・伊賀〉3/29)

▶新図書館整備 近鉄[グループ]と覚書 四日市市 [近鉄四日市]駅前新施設内に (読売〈三重〉4/12)

●関西

▶本を読みたい 住民に応え走る 京都府 公立の移動図書館 京都市、41ヵ所へ毎月 大雪でも開館「ないと困る」京丹波町 山村の公民館、こども園へ 府内7市町で運行中 1970年代に増、広域連携進み廃止も 車両小型化、貸し出し堅調 (京都2/15)

●中国・四国

▶鳥取[市]の上住[紗代]さん 最優秀賞に輝く [第5回]「図書館で夢を実現しました大賞」表彰式

(日本海3/22)

▶鳥取いなばLC 電子書籍を寄贈 [鳥取]市電子図書館内にコーナー [鳥取いなばライオンズ図書館]を新設 (日本海3/28)

▶児童図書120冊 [鳥根]県教[育]委[員会]に贈る 黄色い手帳運動推進協[力会] (山陰中央新報3/4)

▶銀山まちに楽しい図書館 本棚はあんどん、間歩 旧商家改修 学び憩う場に [石見銀山まちを楽しむライブラリー 大田市]

(山陰中央新報4/1, 関連1紙)

▶きっかけは子どもの行列 本の検索サイト[「よんでみん?」]考案 全国[選抜小学生プログラミング]大会 頂点の堀田[奈音]さん「きゅん」で探せるプログラム [東広島市立図書館でQRコード掲示] (中国3/9)

▶図書館移転費を可決 広島市議会[予算特別]委[員会] 修正案は否決 (中国3/14, 関連5紙)

▶[データで見る広島 '23市長選] 減少する“本の予算” 移転決定の図書館 充実策は [広島市]

(毎日〈広島・備後〉3/25)

▶船井電機[池田工場]跡地整備 基本計画策定へ 三好市が検討委[員会] [図書館など] (徳島2/28)

▶読書に役立つサービス紹介 [徳島]県立図書館 企画展「[どうも、県立図書館です!」始まる

(徳島4/12)

▶南国市 新図書館は25年度着工 来月にも造成工事公告

(建設通信3/16)

●九州・沖縄

▶図書館の管理料増額を専決処分 議案否定受け行橋市長

(西日本〈北九州・京築〉4/4,

関連1紙)

▶[福岡県]築上町に24年度開館の図書館 隈研吾[建築都市設計]事務所が設計 (西日本〈北九州・京築〉4/5)

▶[福岡県]広川町上広川小[学校]に最優秀[賞]と文[部]科[学]大臣賞 [第68回]全九州学校図書館コンクール (西日本3/30)

▶書籍を贈り続け10回目 クロレラ工業 筑後市立図書館に (読売4/5)

▶「ガチャ本」良書に出会う 筑後市立図書館 22日から開始

(読売4/19, 関連1紙)

▶佐賀市 来年度に基本構想 市立

図書館リニューアル (建設通信2/22)

▶武雄市図書館 9割超「満足」 リニューアル10年、観光地として定着 利用者アンケート 駐車場や座席 不足など課題も (佐賀3/30)

▶武雄市図書館 サービスを拡充 リニューアル10周年、記念イベントも (佐賀4/3)

▶[長崎県]長与町新複合施設の設計 委託候補 スターパイロットを選定 [図書館など] (長崎3/21)

▶新・五島市立図書館オープン 開放的な造り「末永く愛される場に」 (長崎4/2)

▶[中央区]発]児童と本出会い後押し [熊本市]出水小[学校]PTA 500冊寄付 廊下に「[いずみの森]文庫」/毎月朝の読み聞かせ

(熊本日日3/17)

▶[とびっく]人吉市 こども図書館 新設 (熊本日日3/22)

▶[とびっく]荒尾市[立図書館]に] 児童書約100冊を寄贈 [荒尾ロータリークラブ] (熊本日日4/6)

▶[佐伯市]佐伯図書館の命名権 三浦造船所と市がパートナー締結式 [「三浦造船佐伯図書館」]

(大分合同3/26)

▶愛称「ひだまり図書館」 日向市、要望沿い[移動図書館車]巡回

(宮崎日日3/22)

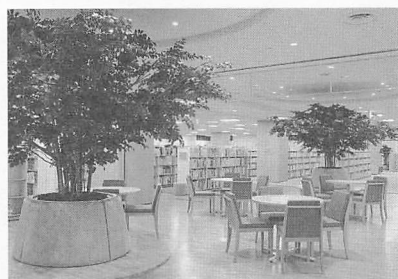
▶[センテラス天文館 開業1年]㊥ 集客装置 広場と[鹿児島市立天文館]図書館が貢献

(南日本4/6, 関連3紙)

今月も石井一郎様、鎌田梨奈様、桑原芳哉様、鈴木嘉弘様、梅野みな様、野口敬太郎様および山梨県立図書館、県立長野図書館、掛川市立中央図書館、小郡市立図書館、筑後市立図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。



新館紹介

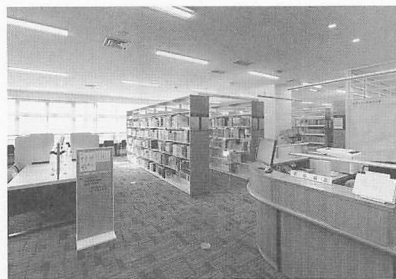


開館 2021年
10月1日
延床面積
2,365㎡

■かこがわし かこがわ 加古川市立加古川図書館 (兵庫)

〒675-0065 加古川市加古川町篠原町21-8 カビル21ビル6階 ☎079-422-3471

▶駅前の商業施設内に移転開館しました。同じ階に書店もあり、立地的に通勤通学者の利用も意識しつつ、コーヒーを飲みながら読書できるスペースもあります。(樽本葉月)

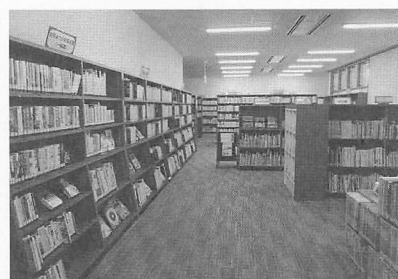


開館 2022年
4月1日
延床面積
2,766㎡

■かなざわ い か 金沢医科大学図書館 (石川)

設計：中島建築事務所
〒920-0293 河北郡内灘町大学1-1 ☎076-218-8057

▶『学生のための図書館』、『静かな学習環境』、『学生・研究者のためのハイブリッドライブラリー』がコンセプト。医療・看護を中心に有用な情報サービスを行う。(荒木萌子)

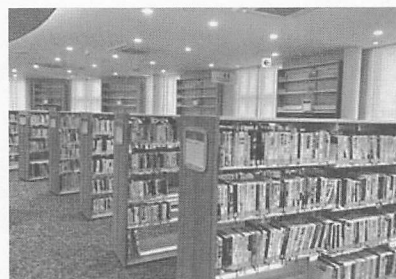


開館 2022年
1月4日
延床面積
184㎡

■しばたし かじかわ 新発田市立中央図書館加治川分館 (新潟)

設計：あい設計
〒959-2415 新発田市住田501 ☎0254-22-2418

▶新しくなった図書館は、これまでより広く明るくなり、閲覧・学習スペースも増えました。また、加治川地域の象徴である桜に関する本のコーナーも設置しています。(中山のぞみ)



開館 2022年
4月1日
延床面積
738㎡

■いけだし いしばし 池田市立石橋図書館 (大阪)

設計：類設計室
〒563-0032 池田市石橋1-23-6 ☎072-760-2383

▶複合施設ツナガリエ石橋内に開設し、ダイバーシティセンター、地域子育て支援拠点が同居。SDGsコーナーやいきいきライフコーナーを設け、地下に集密書架がある(塚原大介)

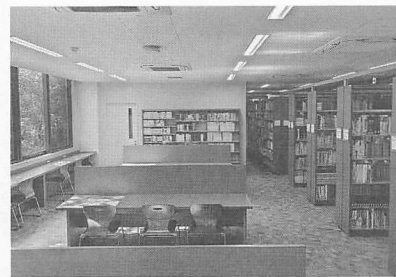


開館 2022年
3月22日
延床面積
143㎡

■いがしうえの あおやま 伊賀市上野図書館青山図書室 (三重)

設計：森永・三浦設計共同体
〒518-0292 伊賀市阿保151-1 ☎0595-52-1110

▶伊賀市の南部に位置する明るく落ち着いた雰囲気の図書室です。支所等が入る複合施設内にあるため、施設利用の際に立ち寄り、利用することもできます。(村田智美)



開館 2022年
4月1日
延床面積
120㎡

■かわさきりょう 川崎医療短期大学附属図書館 (岡山)

設計：佐藤総合計画
〒700-0821 岡山市北区中山下2-1-70 ☎086-201-5119

▶看護、医療介護関係の専門書を備え、同じ学園の川崎医科大学と川崎医療福祉大学の蔵書も取り寄せて利用できる。明るく居心地の良い、学びの空間となっている。(高畑 都)



新館紹介



開館 2022年
4月3日
延床面積
1,950㎡

■うきし 宇城市立図書館 (熊本)

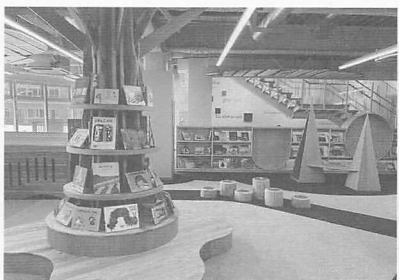
設計：カルチュア・コンビニエンス・クラブ
〒869-0552 宇城市不知火町高良2352 ☎0964-32-6211
▶宇城市立図書館は、美術館と図書館が同じ建物に同居する、宇城の総合的な文化施設です。コンセプトは、『誰もが創造性を育み 発揮する美術館・図書館』です。(瀬川優希)



開館 2022年
5月1日
延床面積
472㎡

■ながおかし とちお 長岡市立栃尾地域図書館 (新潟)

設計：中越興業一級建築士事務所
〒940-0222 長岡市中央公園1-67 ☎0258-53-3005
▶市民交流と学びの場「栃尾地域交流拠点」(愛称トチオーレ) 2階。地域ゆかりの上杉謙信、錦鯉の資料を収集。トンネルから入る絵本コーナーが人気です。(松矢美子)



開館 2022年
4月17日
延床面積
5,697㎡

■かなざわし たまがわ 金沢市立玉川こども図書館 (石川)

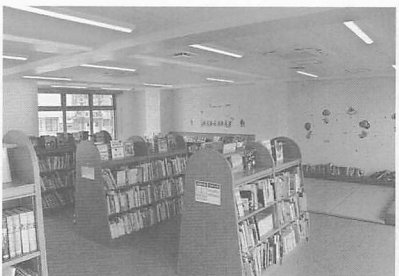
設計：五井建築研究所
〒920-0863 金沢市玉川町2-2 ☎076-262-0415
▶改築により、木をふんだんに用いた開放的で明るい「木のひろば」を新設し、木製遊具と絵本に囲まれて、親子が楽しみながら読書に親しめる環境を整備した。(南由起子)



開館 2022年
5月19日
延床面積
140㎡

■いだし いいだきまゑ 飯田市立中央図書館飯田駅前分室 (長野)

設計：エス・ティプランニング
〒395-0086 飯田市東和町2-35 丘の上結いスクエア3階 ☎0265-22-0706 (飯田市立中央図書館)
▶JR飯田駅前の複合施設に高校生・若者をメインターゲットにした分室が新規開館。開放的なフロアで本が楽しめる。セルフ貸出機や予約本受取ロッカーなどを設置。(代田智之)



開館 2022年
4月17日
延床面積
693㎡

■やえざちよう 八重瀬町図書館・こども学習センター (沖縄)

設計：盛設計
〒901-0406 島尻郡八重瀬町字屋宜原146-5 ☎098-998-1350
▶2階は中学生から一般向け図書、3階は幼児から小学生向け図書を配置し、児童生徒の自主学習、一般も含む勉強のための学習スペースを備えた図書館となっています。(嘉数 修)



開館 2022年
6月18日
延床面積
383㎡

■なみえまち 浪江町図書館 (福島)

設計：日立建築設計 〒979-1521 双葉郡浪江町大字権現堂字矢沢町40-1 浪江町ふれあい交流センター内 ☎0240-23-5613
▶東日本大震災および原発事故の影響により休館していた浪江町図書館が、2022年6月18日にオープンした「ふれあいセンターなみえ」内に11年ぶりに再開しました。(木村正人)

特集◎既存図書館のリニューアル

既存図書館のリニューアルについて

中井孝幸

1. はじめに

2021年度の第42回図書館建築研修会のテーマは、「図書館のリニューアル」¹⁾についてであり、そこで「既存図書館のリニューアルについて」と題して4館を対象に行ったヒアリングから報告を行った。本稿は、それらをもとに加筆修正したものである。

最近話題となっているSDGsへの取り組みからも、「環境への配慮」、「ライフサイクル」といった視点が、施設計画や維持管理において必要不可欠であるといえる。建物を数十年長く利用するための長寿命化、多様な市民ニーズに対応して機能性や利便性を向上させるための「増築」や「改修」、「更新」といった手法は、これからかなり増えていくと考えられる。

2. リニューアル事例の紹介

図書館建築において、増築や改修は何も目新しいものではない。書庫の増築、設備機器の更新はもとより、耐震改修やアスベストの除去、特定天井の改修などは行われてきている。全国でも既存図書館の増築や改修によるリニューアルの事例は、数多く見受けられる^{2), 3)}。そこで、改修前後の平面計画を入手できた磐田市ひと・ほんの庭にこっと（以下にこっと）、松阪市松阪図書館（以下松阪）、武蔵野市立吉祥寺図書館（以下吉祥寺）、浦安市立中央図書館（以下浦安）の計4館で、2021年11月と12月に行った聞き取り調査から、建築的な改修ポイントを整理していく。

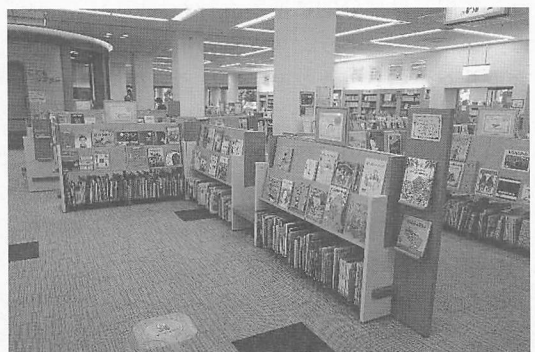
(1) 磐田市ひと・ほんの庭にこっと

既存図書館は、1991年11月豊田町立図書館として開館後、2005年の市町村合併で磐田市立豊田図

書館となり、市内は5館体制となった。各館は特徴づけを行い、旧豊田図書館は「子育て支援施設」としてリニューアルされた。にこっとは、図書館の機能は有するが、図書館法の図書館ではない。しかし、開架（児童）3万冊、みんなのま（大人）2万冊、書庫5万冊となり、施設全体では児童5万冊、一般5万冊、雑誌70誌の計10万冊の立派な図書館といえる。スタッフは14名で、司書4名、保健師2名、保育士2名、通訳（ポルトガル語）1名、事務職5名。カウンター業務や初期相談窓口は、スタッフ全員ができる新しい取り組みである。図書館機能の運用は2018年8月から、直営で図書館カードのシステムは市内共通である。

既存施設は築30年のため長寿命化も含めて改修し、設備機器や照明器具も更新している。建物入り口をスロープに変更し、駐車場からの通路は「しあわせの小路」として計画。出入口上部のガラス面を大きくして明るいエントランスとし、外壁の腰壁や出入口を白色に塗装している。

開架閲覧室は、全体をこどもが楽しめる本約3万冊を開架する「あそびのま」に変更し、読み聞



▲磐田市ひと・ほんの庭にこっとの内観

かせや紙芝居、人形劇も上演できるガラスで仕切られた「こどもシアター」を新設。幼児閲覧室をおもちゃで遊べる「こどものま」に、お話コーナーまわりを相談室や授乳室、こどもトイレに変更。レファレンス室とAVコーナーは、一般成人が静かに本を読める「みんなのま」に変更。既存の7段書架を、下の斜め2段は展示台のある児童用の絵本架とし、上の5段はみんなのまに設置、一部壁面書架にも転用して活用。あそびのまにある90度に囲まれた低書架群は、新設されている。

共有の休憩スペースについては、芝生の広場として「にわのま」を整備。応接室や事務室の一部を改修し、中庭を眺める「いこいのま」を新設。展示室は飲食可能で、自動販売機もある「くつろぎのま」として設置。2階は、ガラスパーティションの「まなびのま」として読書・学習室を再整備し、3階には予約制の天体観測室がある。

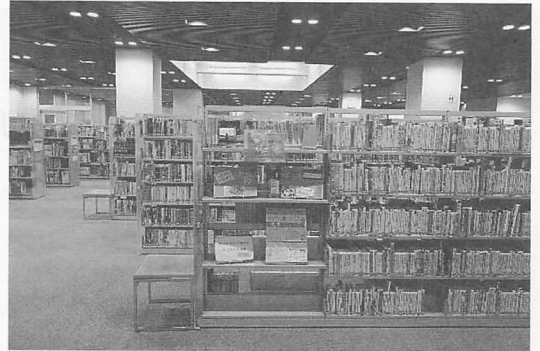
(2) 松阪市松阪図書館

既存図書館の1987年に建設された本館と1998年に増築された2棟を一体的に整備し、1年間の改修期間を経て、2018年4月にリニューアルオープン。松阪市は2館体制のため、工事休館中は嬉野図書館がサポート。利便性の向上を図るため、予約本コーナー、自動貸出機、図書除菌機や電子書籍・インターネットコーナーの設置、学習室座席管理システムなど、デジタル化が進められ、レイアウトの変更も大きく、書架なども全て新しく総入れ替えしている。

外構では、南東側の鈴の森公園側に2棟をつなぐ歩廊が新設され、エントランスホールの位置も幹線道路側から緑豊かな公園側に移設し、エントランス周りは部分的に増築も行われている。内部は、メインエントランスからの出入り方向を90度変更したため、カウンターの位置も公園側の正面に移動。児童コーナーも南西側に集約され、授乳室などが新設。円弧状の電子書籍・インターネットコーナー、多彩な家具が置かれた雑誌・新聞コーナーが1階に設けられた。

2階は増築棟に参考図書・郷土資料を集約し、本館部分は旧会議室や学習室を広げ、視聴覚室や会議室を「講座室」として一体化し、大きく学習ゾーンと書架のある開架閲覧ゾーンの二つに分け

られている。2階の中央部分に、飲食可能な「休憩・交流コーナー」を設置。その他、設備機器や照明器具、天井材などが更新され、トイレなどの水回りも改修している。



▲松阪市松阪図書館の内観

(3) 武蔵野市立吉祥寺図書館

武蔵野市は、中央、吉祥寺、武蔵野プレイスの3館体制でサービスしている。既存の吉祥寺図書館は、1987年に開館し、2017年9月より休館、2018年4月にリニューアルオープン。築30年が経っているが、外壁や外構などの工事は無い。リニューアルの基本コンセプトは、①施設の有効活用・長寿命化、②ヘビーユーザーの重視、③新たな図書館ユーザーの開拓、④ライブラリー・オートメーション（L.A.）の導入、⑤利用者ニーズを踏まえた適切な施設運営。

1階には参考図書を置き、貸出、予約本の取り置き、返却をセルフでできるようにした。また、1階出入口正面の壁面に、吉祥寺に関する本を古いものから新しいものまで100点ほど常設展示した「きちとしょトピックス」を新設。このきちとしょトピックスは、フルタイム8人、嘱託14人の職員全員で3人ずつのチームとなり、2か月に1回交代で展示を行っているとのこと。土日の開館時間は17時閉館から20時まで延長している。

1階はきちとしょトピックスなどの展示や予約本の取り置きコーナーを新設するため、機能の集約やレイアウトの変更はあるが、基本的には既存のレイアウトを踏襲。トイレや事務室は、改修されている。2階は、児童コーナーのカウンターが中央へ独立して設置され、低書架で囲まれた絵本

スペース、エリア内に授乳室を設置。学習・講座室を再整備し、録音室の横にトイレが新設された。

地下1階は、階段の手すり部分をシースルーにして、視認性が高く開放的なものに変更。階段踊り場の下部分に水平な台が設置され、ベンチとして利用できる。サンクンガーデンに面した窓際は、カウンター席に変更。地階では書架の上へ棚の増設により、開架冊数1万冊増、閲覧席は27席増。その他、機械設備が更新され、親子トイレなどが増えている。



▲武蔵野市立吉祥寺図書館のサンクンガーデン

(4) 浦安市立中央図書館

浦安市立中央図書館は、1983年3月に開館し、1989年に書庫棟の開架書庫（公開書庫）、その後2006年に飲食可能なラウンジを増築している。1年3か月閉館し、2020年3月にリニューアルオープン。閉館中は別のビルに予約のみの臨時窓口だけ開設、中央館近辺の住民へサービスを提供。書架は館内に残したまま工事を行い、図書を民間倉庫に一時的に60万冊預け、新刊の5万冊分は分館に設置。外構で整備した駐車場が冠水するため、各出入口に止水板を設置している。

図書館側が作成したコンセプトを設計事務所に渡し、計画を進めた。パソコンはタブレットに更新し、Wi-Fi環境を整備。改修を機に中央館のみ読書通帳を導入し、通帳は小中学生が無料、大人は300円で販売。また、学校図書館も通帳を始めると、児童のカード登録が増えているとのこと。

エントランスホールにデジタルサイネージを新設、中央カウンターは職員が通り抜けられるよう三つに分割され、上部にディスプレイ棚が新設さ

れたが、高い位置からの本の落下を防ぐためパネルや写真を展示している。一般フロアは、床のフローリングを削って明るい色に戻し、公園側にカウンター式の南側閲覧席を設け、中央カウンターから離れた一部の既存書架の上とインターネットコーナーにも棚を増設。また、一般閲覧室の一部をガラスで仕切り、大学図書館のラーニングコモンズのように学習活動の展示発表やグループ討議もできる「ワークスペース」が新設された。児童フロアは、カウンターの位置が移動し、天井照明を一新し、授乳やオムツ換えができる「あかちゃんほっとすてーしょん」、カーペット敷きの「のびのびひろば」が新設。レファレンス室は、雨漏りの対策でトップライトを撤去し、新聞架・雑誌架を新しくして、閲覧机も大きくなり、レファレンスカウンターも二つに分けられた。

車庫棟は、学習室・集会室の一部に静かに学習できるサイレントルームを設置、車庫棟のカウンターを学習室側へ移動し、地下の開架書庫とつながる小荷物専用昇降機を新設。コンピュータ室をAVコーナーに変更、学習室の全席でPCや電卓の使用が可能。地下1階は、開架書庫の一部を集密書架にして3万冊増量し、スチール書架の一部は残している。

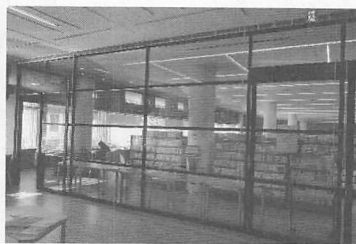
2階は、ヒアリンググループ（磁気誘導ループ）を設置した視聴覚室や集会室の内装、トイレも全面的に改修され、太陽光パネルも新設された。その他、設備機器や照明器具、天井材などが更新され、多目的トイレなどの水回りも増設している。



▲浦安市立中央図書館の内観



▲くつろぎのま (にこっと)



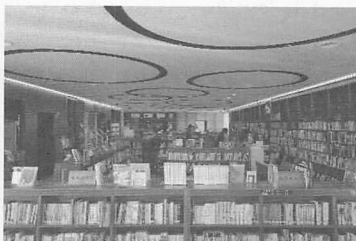
▲ワークスペース (浦安)



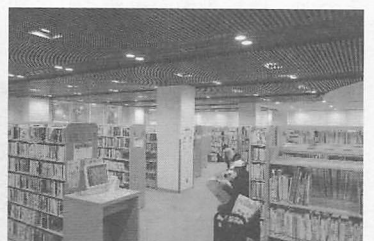
▲こどもシアター (にこっと)



▲フローリング (浦安)



▲児童エリア天井 (浦安)



▲一般コーナー天井 (松阪)

3. 機能性や利便性の向上のためのリニューアル

以上の四つの事例から、特に機能性や利便性の向上のための改修について整理する。

(1) 飲食と会話が可能な多用途スペース

にこっとでは「くつろぎのま」、松阪では2階に「休憩・交流コーナー」として飲食スペースが新設されていた。浦安は、以前の改修工事で「ラウンジ」を整備済みであるが、滞在型の利用を促すためにも、会話や飲食できるスペースは今後も必須となる。

浦安の「南側閲覧席」では書架を減らして閲覧席を増やしているが、ラーニングコモンズのようにグループ利用や展示会、ミニ講座も開催できる「ワークスペース」が新設されている。にこっとでもお話し会や人形劇にも利用できる階段状の「こどもシアター」がガラス張りで新設されている。これらは「音のゾーニング」のためガラスで仕切られているが、視認性も高く、部分的に開放されているため閉塞感もない。会話できる多用途なスペースが開架エリアの中にあれば、さまざまな学びの活動が見える化され、市民がふれあう機会を創出できる。

(2) トイレなどの水回りの改修

トイレの改修はどの図書館でも行われており、床仕上げを水洗いの湿式からモップ掛けの乾式へ

の変更、特に和便器から洋便器への入れ替え、多目的トイレの設置、児童エリアの授乳室などの赤ちゃん用のスペースの設置が行われていた。

既存施設の状況によっては、授乳室を計画する際、給配水設備を新たに引き込んだり、追加する場合も出てくると思うが、子どもたちの利用状況に鑑みてしつらえを計画したい。

(3) 内装材の改修

浦安では床材のフローリングを削ることで明るい色調となり、部分的にタイルカーペットを敷いていた。図書館の内壁は、壁面書架になることが多いため、展示を行う壁として計画する際も将来的に棚板が増設できるよう、壁面内に書架の支柱を埋め込んでおくことも検討したい。

天井は、吸音性能の確保はもちろん、蛍光灯からLED照明への変更、浦安の児童エリアのように円形模様を出したり、松阪の1階のように木のルーバーと天井に取り付く器具を集約してはめ込むと、視認できる面積も大きいいため、室内も明るく感じるなど、受ける印象にも大きく影響する。

改修後の利用年数にもよるが、内装材の選定にも低メンテナンスで長寿命のものを選びたい。

(4) 書架の増設と撤去

書架については、単純な増設というよりは、閲覧席数を増やすために書架を少し減らしつつ、冊

数を確保するため、浦安と吉祥寺では、中置書架の上部へ数段分を増設している。

一方、にこっとは一般開架用の書架を子ども用に変更するため、木製書架の上下を分離して下の部分を低書架とし、上部のまっすぐな部分は一般用の中置書架として分けて利用している。松阪は書架の総入れ替えが行われており、にこっとは新しい低書架も設置されているが、長期的に見て飽きのこないデザインや性能低下を起こさないような材質や製品を選択したい。

(5) カウンターの位置と形状の変更

松阪はメインの出入口を変更したため1階のカウンターが、吉祥寺と浦安は児童エリアのカウンターが、書架レイアウトや動線・視線の関係から位置を移動させていた。

浦安では、中央カウンターとレファレンスカウンターが分割され、職員が開架室へ出入りできる通路を確保している。貸出返却の自動化が進めば、カウンターでの貸出返却作業は減り、職員はカウンター内だけではなく、フロアに出てレファレンスを行うことも増えると考えられる。カウンターは事務室やバック動線とのつながりも重要であるが、位置や形状の変更も検討したい。

(6) 近づきやすいアクセシビリティの確保

にこっとは駐車場からの外部アプローチにスロープを設置し、浦安では歩行者用通路を設けて歩車分離を図るなど、建物内部だけでなく建物へのアクセシビリティを高め、安心安全に図書館を利用できるような整備が行われている。段差のある室内は、建築的な魅力も増すが、たった数センチの段差のために利用できない、遠く離れたEVや段差解消機を利用する事態がないように計画するべきである。

物理的な段差処理だけではなく、心理的なバリアフリーにも配慮し、通路幅、カウンターや机の高さなど、図書館家具においても誰もが近づきやすいレイアウトやデザインを検討したい。

4. あとがき

図書館は「成長する有機体」と呼ばれているが、建築においても成長する図書館に応じて、柔軟に対応していくべきである。そのためには、図書館職員と設計者がよく話し合い、目標を共有し、個別の課題に対してお互いに知恵を出し合い、協働することが必須となる。

短期的、また中長期的なリニューアルに向けた気づきやポイントを整理するため、利用者の利用状況をよく観察し、日ごろから利用者ニーズを捉えておくことが必要であろう。また、数多くの事例を見て、最新の取り組みや設備機器などにも関心を持って触れて頂きたい。

最後に、調査にご協力いただいた各図書館の館長ならびに職員の方々、また、本稿をまとめるにあたりご助言を頂きました日本図書館協会図書館施設委員会の各委員に深謝いたします。

参考文献

- 1) 日本図書館協会編：『第42回図書館建築研修会（2021年度）図書館のリニューアル』日本図書館協会，pp.10-18，2022.2
- 2) 中井孝幸・川島宏・柳瀬寛夫：『JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ，12図書館施設論』日本図書館協会，2020.3
- 3) 日本図書館情報学会研究委員会編：『わかる！図書館情報学シリーズ第5巻 公共図書館運営の新たな動向』勉誠出版，pp.117-139，2018.11

（なかい たかゆき：愛知工業大学工学部，

JLA 図書館施設委員会）

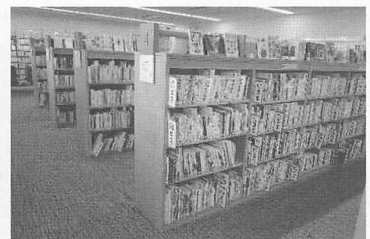
[NDC10：012.28 BSH：1. 図書館建築 2. 建築物維持管理]



▲一般書架の上部へ増設（浦安）



▲低書架への再利用（にこっど）



▲中置書架への再利用（にこっど）

公立図書館のリニューアルと 公共施設等総合管理計画

松本直樹

1. 図書館整備のこれまで

公立図書館は建設当初は立派でも、年数が経過すると施設は劣化し、魅力を減じることがある。しかしこれからの社会では、図書館が古くなったからといって、簡単に新しい施設が建設されとは想定されない。その背景には、人口減少・人口構成の変化、公共施設の老朽化、地方財政の逼迫などがある。こうしたことから、図書館を含む公共施設を長寿命化し、いかに時代にあったものとしていくかが課題になってきた。本稿では、自治体で公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」）が策定され、さらに個別施設計画の策定が進む中で、その政策動向の理解を深めるとともに、大規模改修（リニューアル）をどのように進めるかを考えていきたい。

これまで図書館界では大規模改修が問題になることはあまりなかった。もちろん改修は行われてきたが、不具合・故障が出たときには必要な範囲のみ修繕を行うことが多かった。そして、もし機能的に施設が時代に合わなくなれば、建物の物理的な耐用年数を待たずに建て替えられた。実際、図書館の竣工年を『日本の図書館 統計と名簿』（CD-ROM統計編 公共）で確認すると、2021年4月時点で、60年を超える図書館は21館（0.7%）しか存在しない。

こうした図書館を含む公共施設の施設管理のあり方が大きく変化したのは、2012年の笹子トンネ

ル天井板落下事故以降である。この事故をきっかけに、公共施設のマネジメントが政府主導で強力に推進されるようになった。そこで、次に政府の取り組みについて見ていきたい。なお公共施設のマネジメントは、更新や統廃合などの対応も含むが、本稿では大規模改修を中心に論じていく。

2. 政府の取り組み

ここでは、政府、特に総務省と文部科学省を中心にこれまでの政策の流れを簡単に確認する。政府は2013年、総合的・一体的なインフラマネジメントの実現等を目指して「インフラ長寿命化基本計画」を策定した。この計画ではトータルコスト縮減のため、事後保全から予防保全への転換など、公共施設の長寿命化を図るための基本的方針が示された。これを踏まえて、文部科学省は2015年、「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、社会教育施設等の長寿命化に向けた設置者の取り組みを支援していく。

前後するが、総務省は2014年、「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」を示した。この「指針」では、自治体に総合管理計画の策定を求めるとともに記載すべき事項を示した。いくつか重要なポイントを挙げると、計画期間は10年以上とすること、全庁的な取り組み体制を構築すること、今後の利用需要の見通しを把握すること、PPP/PFI活用を考え方を記載すること、議会・

住民と情報共有をすること、市区町村域を超えた広域的検討をすること、などがある。この「指針」は2018年、2022年に改定されている。

3. 総合管理計画と個別施設計画

総合管理計画は、2016年までにほぼすべての自治体で策定が完了した。この計画は当然、自治体の各種計画と関係する。したがって、自治体の総合計画、実施計画等のもとに位置づけられるとともに、行政改革プランとも密接に関係する。また、図書館の関係では教育振興基本計画、生涯学習計画、図書館サービス計画等とも関係する。さらに、図書館等個別施設の長寿命化計画である「個別施設計画」の上位計画に位置づけられる。

個別施設計画の策定は2020年度ごろまでが目標とされたが、実際には2022年4月時点でも、例えば社会教育施設では策定率が84%にとどまっている。そのため文部科学省などは、繰り返し通知を发出し、その策定を促している。

4. 図書館と個別施設計画

文部科学省は、図書館を含む社会教育施設には、個別施設計画策定のマニュアル・ガイドラインを作成せず、学校施設¹⁾、スポーツ施設²⁾のものを参考にするよう指示している。実際、自治体によっては、それらのマニュアルを参考に策定している。

このうち「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」では、個別施設計画に盛り込むべき内容として、長寿命化計画の背景・目的、施設の目指すべき姿、施設の実態（運営状況、活用状況等の評価）、整備の基本的な方針、それを踏まえた施設整備の水準、長寿命化の実施計画、長寿命化計画の継続的運用方針などを挙げている。これらと関係して、図書館の個別施設計画の策定および実施にとって重要と思われる点について述べたい。

①日常的な活動

1点目として、評価項目を踏まえた日常的な活

動の重要性が挙げられる。個別施設計画は定期的な改定が予定されているが、その評価では、定量的評価と定性的評価が行われることが多い。このうち、定量的評価では、ハードとソフトが対象となるが、ソフト面については、一般に利用状況やコストが対象とされる。また、定性的評価では、公共関与の必要性、民間による代替性、類似施設の有無などがしばしば評価対象になる。

多様な目的、性格を持つ公共施設を、共通の尺度で一律に評価することには疑問があるが、こうした評価が実際に行われる中では、図書館としても日頃から利用を活発にすること、公共性の高いサービスを提供すること、図書館だからそのサービスに留意すること、などが求められる。

②大規模改修と更新時期

2点目として、施設をいつまで使用するかと、その間の改修の考え方を整理しておく必要がある。文部科学省は2021年に「社会教育施設のインフラ維持管理・更新費の推計について」³⁾を示し、図書館を長寿命化する場合としない場合の費用を試算した。それによれば、仮に「長寿命化改修」を築40年で実施し、更新（改築）を80年とした場合、2050年までに1.2兆円弱の経費削減が可能になると試算している。ここで注目されるのは、試算が耐用年数を80年に設定していることである。こうした政府の方針も影響してか、公開されている図書館の個別施設計画では耐用年数を80年としているところが多く見られる。

図は前述した社会教育施設の個別施設計画策定で参考資料とされた「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」の「改築中心から長寿命化への転換のイメージ」の一部である。ここでも改築は80年で実施することになっている。そして40年を目処に「長寿命化改修」を実施するとされている。この「長寿命化改修」は原状回復を目的としたものではなく、その時点での社会的要求水準を上回するような機能向上を目指す改修であり、改築の6

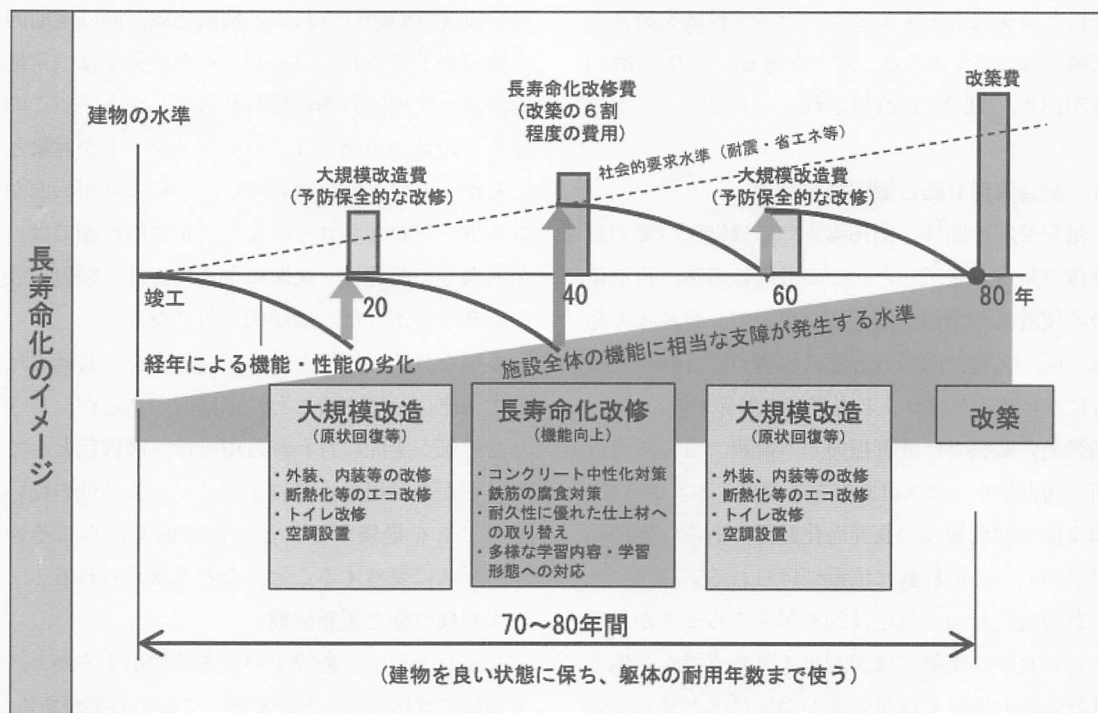


図1. 長寿命化のイメージ（「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」(p.27)より）

割程度の費用を想定している。その前後には、2回、「大規模改造」が予定されており、それらは原状回復を主眼にしている。こうしたスケジュールを念頭に長期的な見通しを立て、施設管理を行っていく必要がある。

③大規模改修の構想

3 点目として大規模改修を自ら構想する必要がある。個別施設計画の多くは大規模改修の詳細を示していない。したがって大規模改修の範囲・内容・方法・期間等は、実施時に改めて計画化されることになる。大規模改修に際しては、一般に自治体の総合計画、実施計画等で計画化される必要があることから、その時々¹の財政状況や全庁的な公共施設等マネジメントにおける優先順位とも関係してくる。したがって、図書館は自ら主導して将来の図書館のビジョンを描き、大規模改修の方向性を示し、庁内各部署に働きかけていく必要がある。

④指定管理者制度への対応

4 点目として、総務省の文書などで言及されている PPP／PFI 等については慎重に取り組む必要がある。個別施設計画の中には、インフラの維持管理効率化の観点から、ほとんど議論なしに指定管理者制度導入がスケジュール化されているものが見受けられる。しかし、図書館への指定管理者制度導入については、図書館界での多くの議論があること、さらに「望ましい基準」(第一 総則 三 運営の基本)や総務省通知・大臣発言などからも、十分な時間をかけた慎重な検討が必要である⁴⁾。

5. 図書館の大規模改修

ここでは、総合管理計画等に基づく図書館の大規模改修（特に先の図の「長寿命化改修」）で、重要と思われることを3点述べる。

①大規模改修の情報共有

まず、1点目は、総合管理計画による施設整備

が進むことで大規模改修が一般化することが挙げられる。最初に見たように、現在、築60年の図書館はほとんど存在しないが、今後、そうした図書館が増えていく。そのため、古くなる図書館の魅力をいかに高めていくかが重要になる。

60年間、あるいは80年間の使用を目指すのであれば、当然、途中で機能向上を目指す大規模改修が必要になる。したがって、図書館界でも、今後、この分野の知見をさらに蓄積し共有していく必要があるし、標準的な施設の要求水準を整理していくことなども考えられる。

②情報の収集

2点目として、計画づくりにおいては、実態把握以外に、将来予測や環境把握が必要である。将来予測としては、人口動態などの予測はもちろんであるが、それに加えて図書館の将来に関する情報も有効である。国際図書館連盟(IFLA)やアメリカ図書館協会(ALA)は定期的にトレンドレポート⁵⁾⁶⁾を刊行している。そうしたものを参考にすることも考えられる。

環境把握としては、広い視野でデータを収集・分析することが必要である。福井市では大規模改修の計画策定時、民間の関連した取り組みや書店の立地などのデータを収集している⁷⁾。文京区では改修計画が具体化している一館に加えて、区内図書館全体の改修の方向性や機能向上の方策を検討している⁸⁾。このように広い視野から動向を把握したり、図書館システム全体との関係から検討することも重要である。

③計画の策定

3点目として、こうした計画策定では、図書館建設時と同様の手法が活用できる。大規模改修を実施した図書館の中には、策定委員会やワーキングチームの設置、他図書館の視察、図書館協議会への諮問、ワークショップ、パブリックコメント、市民アンケートなどを実施しているところがある。総務省の「指針」も「議会や住民への十分な情報

提供」を求めている。十分な検討と情報共有を心がけたい。

計画策定で注意すべきは、その図書館に固有の制約条件の把握と、改修時点で一般的な公共建築物に求められる施設整備が、まずは求められることである。したがって、耐震改修、アスベスト除去に始まり、ユニバーサルデザイン対応、環境対策、防災機能向上、ICT環境整備など、制度的・技術的な発展に追いつくことは前提となる。その上で数十年先を見据えて、より高いレベルの社会的要求水準を目指す必要がある。その検討こそ、所管部署である図書館の専門的知識を活かした積極的な取り組みが期待されるところである。

注

- 1) 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課。学校施設の長寿命化計画策定に係る手引。文部科学省。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/036/toushin/1356229.htm, (参照 2023-4-15)。
- 2) スポーツ庁参事官(地域振興担当)付施設企画係。スポーツ施設のストック適正化ガイドライン。スポーツ庁。
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop02/list/detail/1385575.htm, (参照 2023-4-15)。
- 3) 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課。社会教育施設のインフラ維持管理・更新費の推計について。文部科学省。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/mext_01276.html, (参照 2023-4-15)。
- 4) 国の通知等は以下が整理している。佐藤聡子。公立図書館の指定管理者制度に関する国の認識：検討過程・通知等の分析から。同志社図書館情報学, 2020, No.30, p.74-94。
- 5) IFLA. IFLA Trend Report. IFLA.
<https://trends.ifla.org/>, (参照 2023-4-15)。
- 6) The Center for the Future of Libraries. Trends. American Library Association.
<https://www.ala.org/tools/future/trends>, (参照 2023-4-15)。
- 7) 福井市教育委員会事務局図書館。福井市立図書館リニューアル事業基本構想・基本計画の策定について。福井市。
<https://www.city.fukui.lg.jp/kyoiku/library/oshirase/p021640.html>, (参照 2023-4-15)。
- 8) 文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会。文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会報告書。文京区。
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/libraries/kinokojo.html>, (参照 2023-4-15)。

(まつもと なおき：慶應義塾大学文学部)

[NDC10：012.28 BSH：1.図書館建築 2.建築物維持管理]

我孫子市民図書館の施設整備

—長寿命化計画策定とその後の進行について—

穂村喜代子

1. はじめに—我孫子市民図書館開館の歴史—

我孫子市が我孫子市民図書館を開設したのは1979（昭和54）年11月のことです。本館（中央館的機能）としての位置づけですが、単独館ではなく、今はなき市民会館の中に置かれました。その後、1982（昭和57）年7月には湖北台分館を開設します。しかし、ここも単独館ではなく、水道局湖北台浄水場2階に置かれました。本来は図書館のように不特定多数の市民が日常的に利用する施設ではないのですが、さまざまな事情で今に至るまで同じところにあります。それから5年後の1987（昭和62）年、初めて図書館施設として設計された単独館となる布佐分館が開館となりました。鉄筋コンクリート造2階建、敷地面積4,600㎡、延床面積999.23㎡、我孫子市の東のはずれに位置していますが、市内で初めてCD・カセットテープを所蔵し、開館すると連日たくさんの利用者でにぎわいました。

そして、2002（平成14）年4月、我孫子市の西のはずれに公民館と図書館の複合施設である生涯学習センター・アビスタがオープン。鉄筋コンクリート造2階建、敷地面積5,302㎡、図書館の延床面積は1,426㎡（共有部分は除く）。手賀沼公園に隣接していることもあって、大変利用が多い施設と

なりました。

これで、我孫子市の図書館行政は、ようやく広いフロアと大きな書庫を兼ね備えた本当の意味での中央館的機能の図書館（アビスタ本館）を得たのです。

2. 図書館施設の現状

2023（令和5）年現在の施設の状況はというと、まずアビスタ本館については10年くらい前から雨漏り箇所が出てきました。図書館部分だけではなく生涯学習センター全体で何か所か雨漏りが発生しています。床面は北欧調の白めのフローリングですが、良く利用される場所や閲覧席がある場所を中心に、化粧塗が落ちて木目が見えています。思えば、開館後うなぎのぼりだった来館者数は年間58万人を超えていましたので床の摩耗が激しいわけです。

次に湖北台分館は、40年を超える建物であるためエアコン、自動ドア、トイレ、外階段、床面などいつ壊れてもおかしくない状態です。移転の方針があるため改修の計画はありません。

最後に布佐分館は、建築から35年が経ちますが、20年以上前から少しずつ不具合箇所が出ています。屋上防水劣化による雨漏りに始まり、エアコンは

15年ほど前に改修しましたが2代目も故障気味、特殊な形状の窓は開けられない箇所があります。2階の女子トイレの天井は雨漏りのため、屋上防水を改修するまで電気がつけられません。よく見ると外壁には多数のひびがあります。

3. 我孫子市における公共施設の管理と保全

さまざまな不具合が出ている建物の年数は、アピスタ本館（生涯学習センター・アピスタ）が20年、湖北台分館（浄水場）が40年、布佐分館が35年ですが、2011（平成23）年の東日本大震災のあとから傷みが顕著に出てくるようになったと感じています。特に布佐分館に関しては、開かない窓が明らかに増えています。震災の際、市内では実際に数か所の地域で液状化現象が起きました。

我孫子市内の公共施設の多くが、昭和40年代から50年代に建設されているため、市として2015（平成27）年から約40年を見据えた公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設保全計画と各施設別に長寿命化計画を策定する方針を出しました。市の決定を受けて、図書館でも「我孫子市民図書館長寿命化計画」策定が必須となりました。

全庁での取り組みのため、先に策定を終えた課があり、形式はある程度統一することと、図書館が策定するときには、一から文章を練るといったプレッシャーはなく、図書館施設で困っているところをよく調べて書き上げていく作業となりました。

計画の背景と目的として、

「本計画は、図書館法に基づく公立図書館の個別施設計画として、施設の担うべき役割や利用状況等を整理するとともに、安全及び衛生の確保をはじめとした維持管理を図るため策定するものです。」

と記しています。まずは利用者と職員が安全で安心して使える施設であることを主眼とし、対象とする施設の現状を見るため、役割と利用状況を調

べて書き、実際に施設で起きている不具合箇所を洗い出し、同時にそれぞれの状態に対し評価をしました。

※評価の基準 A：直ちに補修・改修が必要と判断する。

B：数年以内に補修・改修が必要と見込まれ、継続的な点検による判断が必要である。

C：10年以内に補修・改修が必要と見込まれ、継続的な点検による判断が必要である。

D：現状では特別に補修・改修は見込まない。

策定は急な仕事ではありましたが、実際に使用している現場の職員が策定に加わり、基準に基づき評価を行いましたので、計画策定後の予算計上や事業計画に役立っています。

4. 対策の優先順位

計画では、向こう10年で考えられる対策の内容と実施時期とともに、策定時点で取り寄せた見積りによる費用を表にして載せています。評価の基準に従い、どの年度に実施するのが妥当であるか判断して優先順位をつけました。

その段階で、湖北台分館については、以下のようを考えて長寿命化計画からは外しました。

「湖北台分館については、本来の施設用途ではない湖北台浄水場管理棟2階を活用したものであり、バリアフリーの観点からも根本的な改善が難しい施設です。湖北台地区はこの他にも老朽化が進んでいる公共施設があり、湖北台地区公共施設の整備の方針（第1期整備計画：2018（平成30）年9月策定）や他の個別施設計画に位置付けられた公共施設とも整合を図りながら第2期整備時期にむけて移転を含む検討を行います。その間、事後保全にて必要な修繕を行っていきます。」

アビスタ本館は、建物に関わる部分を生涯学習課が主管しており、図書館の雨漏り、空調、電気関係、給排水関係は生涯学習課の計画に沿って行われます。そのため図書館の中に存在する床面修繕、本の持ち出し防止システム改修、おはなしのへや単独の空調更新を計画に入れました。

布佐分館は、あらゆる部分で老朽化が進んでいるのですが、安全という点から電気設備工事を最優先にしました。その後屋上防水、窓改修、空調更新などを順番に実施する予定にしていました。

しかし、市内のどの施設も計画を策定したものですから、その中でまた優先順位がつくことになり、予算のヒアリングでは後ろ倒しを余儀なくされました。そこへやってきたのが世界中を不安に陥れた新型コロナウイルス感染症の拡大です。感染防止対策として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により、トイレの洋式化や手洗いの自動化に着手でき、感染症発生から3年が経ち、ようやく計画通りに進められるかと思いきや、コロナ禍のための資材調達的大幅な遅れや物価高騰に見舞われています。

5. 今後のあり方

2020（令和2）年度から始まった長寿命化計画は、社会情勢に影響されて計画通りには進んでいません。毎年調整が入って数年遅れている工事もあります。しかし、計画に載せていない改修工事を予算要求に計上するのは大変で、補助金や交付金などの対象にもなりにくくなります。曲がりなりにも計画に沿って予算計上していく流れができたのは、策定しておいたおかげであり拠り所となっています。

我孫子市が計画策定に取り組んだのは、大抵の建物が30年以上経過してからになります。その分傷みも激しく、改修工事費用も高額になる建物ばかりです。アビスタ本館の床面が擦れている件で、傷みがひどくなった理由とどのような修繕方法が

あるのかを実際に施工した業者に確認しました。すると、「公園が近くにある場合靴に土がついてくる。その土は細かい石であるため床面が傷つく原因になる。通常10年ほどでメンテナンスが必要でしたね。」との話でした。当たり前のことですが、メンテナンスは早いほうが良い。しかし、新築の図書館がオープンしたとき、建物が引き継がれるとき、はたしてメンテナンス計画まで考えられているのでしょうか。造っただけ、運営していただけていなかったか、と私自身も振り返って考えています。

もし、新築の図書館を計画している自治体があるようなら、オープンするときから長寿命化計画（またはメンテナンス計画）を策定していくことをお勧めします。

また、老朽化している図書館施設でお悩みの方がいらしたら、利用状況や今後の運営方針を見直して、長寿命化計画策定に取り組んでみてください。図書館サービス計画の一部に盛り込んでもよいかもしれません。自館を見つめなおす良い機会となるでしょう。

（あきむら きよこ：我孫子市民図書館）

[NDC10：016.2135

BSH：1. 我孫子市民図書館 2. 建築物維持管理]

特集◎既存図書館のリニューアル

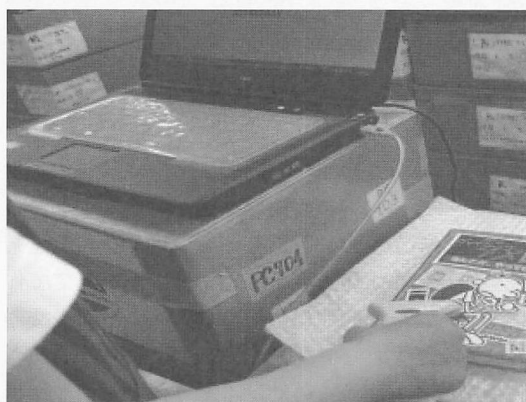
松阪市松阪図書館 リニューアルへの取り組み

松岡美佳

松阪市松阪図書館は建物の老朽化等に伴い、3階建ての建物のうち1階、2階部分が全面改修となった。改修に関しては、図書館改修意見聴取会を開催し、市民からの図書館への要望を集めた。大規模な改修となったため松阪図書館のすべての業務が停止し、工事期間を含め2017年4月より1年間休館した。松阪図書館の業務停止は利用者に大きな影響を与えるので特別措置として、工事に入るまでの2か月間は松阪図書館で予約資料の受け渡しや返却資料の受け入れのみを行った。また、市内公民館に一時保管させてもらうことになった図書館所蔵の開架資料（約12万冊）を段ボール箱（約3,700箱）に詰める資料梱包作業と、同時進行で今回のリニューアルで導入する自動貸出機に対応するためのICタグの貼付・エンコード作業を改修工事が行われない3階書庫で進めていった。

本格的に工事が始まると松阪図書館のスタッフは資料の保管先である公民館と同自治体内で開館

している嬉野図書館の二か所に分かれて業務を行った。公民館では移動させた資料のICタグ貼付・エンコード作業や絵本ラベル変更作業等、嬉野図書館では嬉野図書館所蔵資料のICタグ貼付・エンコード作業も行った。また、嬉野図書館には松阪図書館を主に利用していた利用者の来館もあり、貸出が従来の2倍となり、カウンター対応にも追われることとなった。



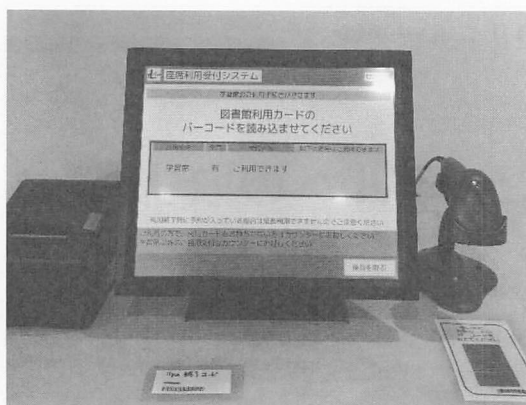
▲ICタグ貼付・エンコード作業の様子

今回のリニューアルは建物の改修だけでなく利用者の利便性を図るため新機器（自動貸出機、予約図書受取室、学習室座席管理システム、インターネットコーナー、iPad、電子図書館、図書除菌機、サイネージ）を導入することとなった。今まで取り入れてこなかった機器のため、私たちはその使用方法などを実際取り入れている県外の図書館に出向き研修を受講するなど、開館後の利用者対応の準備も行った。

工事が終了し図書館の受け渡し終了後、資料の



▲松阪公民館に保管された開架資料



▲学習室座席管理システム



▲図書除菌機

運び入れ作業となった。開館までの残り日数が少なかったため効率よく開館準備ができるよう資料を入れた箱を色分けしたり印をつけるなど配送業者も作業しやすいよう細かい準備計画を立てて作業に入った。同時期に図書館システム更新や機器の研修なども重なり開館までに間に合うか心配されたが、各方面からの助けもあり何とか開館準備を終えることができた。

2018年4月、1年ぶりの開館となり当日は多くの方が図書館に来館され、新しくなった図書館に興味をもっていただいていることが分かった。「きれいになった」「待っていたよ」の声もいただき、心待ちにしてくれた利用者の声にスタッフ一同胸が熱くなったが開館初日だけでなく数か月ほどは繁忙が続きなかなか落ち着かない状態であった。新しくなった館内において、以前は本館と新館に分かれ渡り廊下になっていた箇所をエントランスとして増築することで一体化が図られた(2587.91

m²中、増48.37m²)。1階については増築とともに一部の壁を撤去し一般開架と児童開架を一体化した。正面入り口については公園側に変更することで図書館横の鈴の森公園からのつながりができ、駐車場近くにあるリニューアル以前は荷物の搬入口であった箇所を、もう一か所の出入口として設けたことで利用者の利便性も図ることができた。また、一般室と児童室の入れ替え、以前は1階のみに配架していた一般図書を1階と2階に分けて配架、新しいコーナー設置などの大幅なレイアウト変更を行った。特にブラウジングコーナーでは大きめのソファを配置、キャレル席などの閲覧席を増やすことでゆっくり読書ができるようになった。他にも調べものの対応ができるように新聞記事検索などのデータベースが入ったインターネットコーナーや、おはなし会だけでなく親子で気軽に読み聞かせができる読み聞かせ室、授乳室、オストメイト対応の多目的トイレ、2階には自動販売機が



▲道路に面した旧正面入口（現在は使われていない）



▲公園に面した新正面入口

設置された飲食休憩コーナー、講座室や少人数で利用できるグループ室などを新たに設け、以前の図書館にはなかった環境を整えた。実際、ガラス張りの開放的な読み聞かせ室では親子が読み聞かせを行っているほほえましい様子が見られた。また、1階カウンター奥に作業室を設け、以前にはなかったカウンター近くの作業スペースを確保した。作業室内には、スタッフがスムーズに配架を行えるよう配架用のブックトラックを置き、作業台を設けることで配架作業等の効率化を図った。



▲中の見えにくい旧お話コーナー



▲児童室から一望できる新読み聞かせ室

このリニューアルにより休館前より貸出は3割増、登録者も2倍近くの増となった。全世代において利用が増となっている中で、特に若年者層や子育て世代層の増加が顕著であった。若年者層については学習室利用やティーンズコーナーの設置が要因とみている。学習室には座席管理システムを導入して利用者自身で席を取る方式に変更することで利便性を図った。コロナ禍以前は70席ある

学習席も試験期間には予約待ちの状態となることもあった。新たにティーンズコーナーを設置し、ティーンエイジャーに人気のある資料を集めた。また、出入口付近に設置したことにより、目に着きやすく手に取りやすい環境を整えた。子育て世代層については、実用書（旅行書から子育てまで）を「くらしのコーナー」と名付けて1か所に集めたことや、読み聞かせ室の利用なども要因とみている。リニューアルから5年たった現在は、コロナ禍の利用制限などの影響で、一時期利用が伸び悩んだが、制限が徐々に緩和されていく状況で回復傾向となっている。ここ2年ほどは図書除菌機の利用が増えておりピーク時にはコロナ前より2～3倍増の利用がみられた。

その他にも、リニューアル後にはICタグ導入により蔵書点検時の不明本もリニューアル前に比べ大幅に減り1割程度となった。また、三重県内で松阪図書館のように新機器を導入している図書館はあまりないため、他館からの視察や機器の問い合わせも多く、関心の高さを感じた。実際、小学生の図書館見学では新しくなった館内を紹介していくと、リニューアル前の図書館を知っている子どもたちが、生まれ変わった図書館に興味があるようで「こんなこともできるの？」などの驚きの声も上がっていた。

今回のリニューアルにより課題となっていたトイレ等の施設の老朽化の問題は解決された。そして、新機器の導入により利用者の利便性も図られたが、実際稼働してみて初めて分かる問題もあった。タッチパネル操作の自動貸出機や予約図書受取室は、多くの利用者に浸透し利用いただいている。一方で新しい機器に抵抗を持たれる高齢利用者の方もみられ、その抵抗を払拭していくことも課題の一つとして残っている。その課題を解決するため、利用者に寄り添った丁寧な対応、サインージュや掲示物などの広報を通じて利便性をアピールして、全世代へ向けた利用促進につなげていきたい。

(まつおか みか：松阪市図書館)

[NDC10：016.2156

BSH：1. 松阪市松阪図書館 2. 建築物維持管理]

杉並区立中央図書館のリニューアルへの取り組み

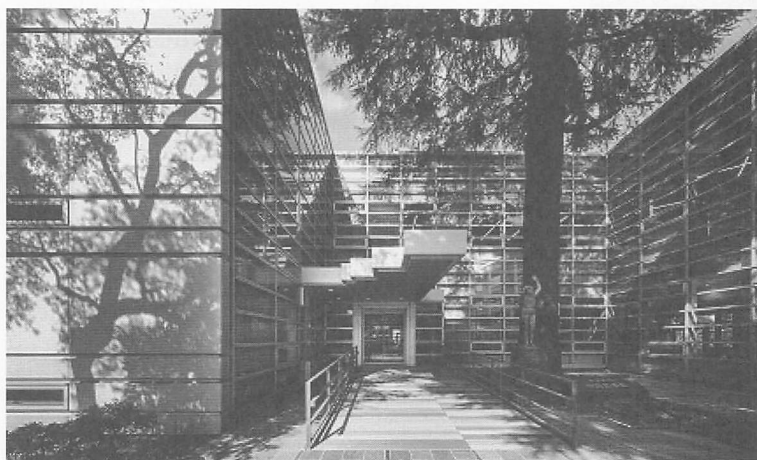
三浦源樹

1. はじめに

2020（令和2）年9月5日、杉並区立中央図書館（以下「中央図書館」）は大規模改修を終えてリニューアルオープンした。区政施行50周年記念事業として1982（昭和57）年に建てられた躯体は、建築家・黒川紀章氏の設計である。改修工事では、長年親しまれてきた特徴的な外観は維持しつつ、利用者等の声を集約し策定した「中央図書館改修基本計画」に沿って、外構を整備し内部のレイアウトを一新した。本稿では中央図書館がリニューアルに至った経緯、その内容について紹介する。

2. 経緯

2016（平成28）年当時、中央図書館は築34年を超え、空調設備、配管等の内部設備の老朽化が課題となっていた。加えて、2013（平成25）年に策定した「杉並区立図書館サービス基本方針」を踏まえて、従来の「文化教養型」としてだけでなく「課題解決型」「交流空間型」としての役割も求められるようになっていた。こうした背景から、区では「区立施設再編整備計画（第一期）第一次実施プラン」および「杉並区実行計画」を改定し、中央図書館の全面的な大規模改修工事を2019（平成31）年度に行うことを決定した。



▲図書館正面

3. 意見聴収

リニューアルに先立って、区民意向調査や区政モニターアンケートを活用したほか、次にあげる手法により、延べ1,400名余の幅広い層の区民から意見聴収を行った。

・区民意見交換会の実施

区内在住・在勤・在学の小学5年生以上を対象として参加者を公募し、「中央図書館改

修を考える区民ワークショップ」を全3回実施。グループワークで配置図面の試案等を作成し、アイデア、意見を共有した。(参加者50名)

・中学生意見交換会

区立中学校生徒の協力により、ワークショップ形式で全8回実施。グループワークによってアイデア、意見を共有した。(参加者10名)

・地域中・高校生委員会等アンケート

児童館等で活動する中・高校生を中心にアンケート調査を行った。(回答者50名)

4. 基本計画

こうして収集した意見をもとに、2017(平成29)年8月策定した「中央図書館改修基本計画」では、次の三点を基本コンセプトとして定め改修を行うこととした。

- (1) 誰もが気軽に利用できる、安全で快適な図書館をめざす
- (2) 杉並区立図書館サービス基本方針に掲げる図書館像(「学びの場」「知の共同体」「楽しい交流空間」)の具現化をめざす
- (3) 時代のニーズを反映した図書館の成長・進化に対応できる柔軟性のある建築をめざす

5. 工事休館中に伴う図書館サービスの対応

改修工事に際して、中央図書館は2019年4月より2020年8月まで休館となった。休館期間中の当該地域の図書館資料の検索や予約本の貸出返却窓口サービスについては、近隣の区立施設の中に臨時窓口を開設して対応した。また、中央図書館の蔵書の内、一般開架で利用の見込まれる本や地域・参考資料については、区内の高井戸図書館の保管庫へ配置換えを行い、そのほかは民間の保管サービスを利用してクローズ対応とした。

6. リニューアルに伴う新たな整備

2020年9月、約1年5か月の休館期間を終え、

中央図書館は新たな姿で開館する運びとなった。課題となっていた電気、空調等の設備更新や内装改修を行ったほか、下記の整備により図書館としての機能拡張を実現した。

①書架の充実・YAコーナーの新設

事前に聴取した区民等の意見で最多であったのは、「一般図書スペースの拡充」といった図書館の「学びの場」としての役割を重視する意見であった。そこで従来一階に集約されていた一般図書、児童図書、新聞雑誌の書架を一階・二階・地階に振り分けて配置し、それぞれを拡充することとした。また、YAコーナーを新設することによりティーンズ向けの配架と閲覧スペースを確保し、若者世代の図書館利用の促進を狙った。

②インターネット環境の整備

今後の図書館ニーズの変化にも対応するため、インターネット環境の整備にも注力した。館内で利用できるタブレット等では、各種オンラインデータベースへのアクセスが可能である。また、自分で持ち込んだパソコン等も利用できるよう館内全域にフリーWi-Fiを整備し、ほとんどすべての席に電源を設置した。「図書館は図書館の本を読むための場所」という意見も根強く、当初は理解を得られなかった取り組みであるが、区民等の要望を直接聴取したことで実現するに至ったサービスである。

③滞在型図書館機能の整備

滞在型の図書館としての需要にもこたえるため、窓際には眺めの良いカウンター席を設けるなど閲覧席を大幅に増設し、読書や学習に適した環境を整えた。加えて、元々地下にあった喫茶室を1階に移設し、軽食のできるカフェとして新しく整備した。これも数多く寄せられた「飲食や会話のできるスペースがあるとよい」という声を反映したものである。光あふれる開放的な空間では、図書館の蔵書を持ち込んで閲覧することも可能である。

④「本の広場」の整備

個性的なガラスカーテンウォールの外壁に接する敷地内の林を屋外広場スペース「本の広場」とした。これは、「図書館周辺の豊かな緑を生かしてほしい」といった声が多く寄せられたため、本来改修工事の対象外となる場所であったが、本棟と合わせて再整備を行ったものである。もともと木々が鬱蒼と生い茂る薄暗い林であったところを、間伐によって明るく風通しの良い空間に一変させた。また、元来の高低差を生かした浮板によるウッドデッキを設置し、屋外でも読書ができる憩いの場を生み出した。そこに椅子やテーブルを散りばめたことで、利用者は思い思いの方法でゆったりとした時間を過ごすことができる。書架スペースからカフェ、本の広場は一体性のある空間として演出されている。リニューアルによって、建築当初に目指した図書館と緑とが調和し、共生するという主旨を引き継ぐ施設が完成した。

7. おわりに

中央図書館の大規模改修は、単なる設備の改修にとどまらず、施設を時代にあった形に変革させることにつながった。これはひとえに、改修に際して声をあげてくれた区民や利用者の意見や要望があつてのことである。意見、要望を直接聴取する機会を設けたことが、需要のくみ上げとしてだ



▲カフェ内部



▲本の広場

けでなく新しい取り組みの原動力として機能し、結果として中央図書館の価値を高めることになったと考えている。

(みうら もとき：杉並区立中央図書館)

[NDC10：016.2136

BSH：1. 杉並区立中央図書館 2. 建築物維持管理]

ユネスコ公共図書館宣言 2022

2022年7月18日採択

原文：英語

社会と個人の自由、繁栄および発展は、人間にとっての基本的な価値である。このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。建設的に参加して民主主義を発展させることは、十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ることにかかっている。

地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する。それは、商業的、技術的、あるいは法的な障壁に妨げられることなく、科学や地域に関する知識をはじめとする、あらゆる種類の知識へのアクセスを提供し、知識の生産を可能にし、かつ共有することによって、健全な知識社会を支える。

図書館は、どの国においても、とりわけ開発途上国において、教育を受ける権利、および知識社会や地域の文化生活へ参加する権利をできるだけ多くの人々が享受しうよう支援する。

この宣言は、公共図書館が教育、文化、社会的包摂、情報の活力であり、持続可能な開発のための、そしてすべての個人の心のなかに平和と精神的な幸福を達成するための必須の機関である、という

ユネスコの信念を表明するものである。

したがって、ユネスコは国および地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与することを奨励する。

公共図書館

公共図書館は、その利用者があらゆる種類の知識や情報をたやすく入手できるようにする、地域の情報センターである。それは知識社会の不可欠な構成要素であって、ユニバーサル・アクセスを実現し、すべての人に情報の意味のある利用を可能にするという責任を果たすため、情報伝達の新しい手法を継続的に取り入れる。また、知識の生産と情報や文化の共有・交換に必要な、そして市民の関与を推進するための、公共スペースを提供する。

図書館は地域社会を育むもので、積極的に新しい利用者にも手を差し伸べ、実効ある聞き取りによって、地域の要求を満たし生活の質の向上に貢献するサービス企画を支援する。人々の図書館への信頼に応え、地域社会への積極的な情報の提供と啓発が公共図書館の目指すところである。

公共図書館のサービスは、年齢、民族性、ジェンダー、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分やその他のいかなる特性を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて提供される。

理由は何であれ、通常のサービスや資料の利用ができない人々、たとえば言語上の少数グループ（マイノリティ）、障害者、デジタル技能やコンピュータ技能が不足している人、識字能力の低い人、あるいは入院患者や受刑者に対しては、特別なサービスと資料が提供されなければならない。

いかなる年齢層の人々もその要求に応じた資料を見つけ出せなければならない。コレクション（蔵書）とサービスには、伝統的な資料とともに、あらゆる種類の適切なメディアと現代技術が含まれていなければならない。質の高い、地域の要求や状況に対応した、そして地域社会における言語的・文化的多様性を反映したものであることが基本的要件である。資料には、人間の努力と想像の記憶とともに、現今の傾向や社会の進展が反映されていなければならない。

コレクション（蔵書）およびサービスは、いかなる種類の思想的、政治的、あるいは宗教的な検閲にも、また商業的な圧力にも屈してはならない。

公共図書館の使命

情報、識字、教育、包摂性、市民参加、および文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館サービスの核にしなければならない。これらの基本的使命を通じて、公共図書館は持続可能な開発目標（SDGs）と、より公平で人道的な持続できる社会の建設に貢献する。

- ・ 検閲のない、幅広い情報や意見へのアクセスを提供し、あらゆる段階の正規と非正規の教育を支援するとともに、継続的、自発的、自律的な知識の探求を可能にする生涯学習を人生の全段階で支援する。
- ・ 個人の創造的な発展のための機会を提供する。そして想像力、創造性、好奇心と共感性を覚醒させる。
- ・ 生まれてから大人になるまで、子供たちの読書習慣を育成し、それを強化する。
- ・ 情報に基づいた民主的な社会を整備していくと

いう観点で、読み書き能力を向上させる識字の活動やプログラムに着手し、援助し、関与して、あらゆる年齢層のすべての人々のメディア・情報リテラシーとデジタルリテラシーの技能の発達を促す。

- ・ デジタル技術を通じて、情報、コレクション、およびプログラムの利用を対面でも遠隔でも可能にして、いつでも可能な限り地域社会にサービスを提供する。
- ・ 社会的しくみの根幹に関わる図書館の役割を認識し、すべての人々にあらゆる種類の地域情報の入手と地域をまとめる機会を確保する。
- ・ 利用者の生活に影響を与える可能性のある研究成果や健康情報など、科学的知識の利用を地域社会に提供し、科学的進歩に関与できるようにする。
- ・ 地域の企業、協会、利益団体に対して適切な情報サービスを提供する。
- ・ 地域と先住民に関するデータ、知識、遺産（口頭伝承を含む）を保存し、利用できるようにする。人々の要望に沿って、確保し、保存し、共用する資料を特定する際に地域社会が積極的な役割を果せる環境を整備する。
- ・ 異文化間の交流を助長し、多様な文化が存立できるようにする。
- ・ 伝統的なメディアであっても、デジタル化資料あるいはボーンデジタル資料であっても、文化的表現・遺産の保存および有意義な利用、芸術性の評価、科学的知識や研究と新機軸へのオープン・アクセスを促進する。

財政、法令、ネットワーク

公共図書館の建物への入場およびサービスは原則として無料とし、地方および国の行政機関が責任を持つものとする。それは国際的な協約や合意に基づいた、特定の、最新の法令によって維持され、国および地方自治体により経費が調達されなければならない。公共図書館は、文化、情報提供、識字および教育のためのいかなる長期政策においても、主要な構成要素でなければならない。

デジタル時代において、著作権と知的財産権に関する法令は、物理的資源の場合と同様に、公共図書館に合理的な条件でデジタルコンテンツを調達しアクセスできるようにする法的能力を有していることを保証しなければならない。

図書館の全国的な調整および協力を確実にするため、合意された基準に基づく全国的な図書館ネットワークが、法令および政策によって規定され、かつ推進されなければならない。

公共図書館ネットワークは、学校図書館や大学図書館だけでなく、国立図書館、広域の図書館、研究図書館および専門図書館とも関連して計画されなければならない。

運営と管理

地域社会の要求に対応して、目標、優先順位およびサービス内容を定めた明確な方針が策定されなければならない。地域についての知識と住民参加の重要性は、このプロセスにとって有用であり、意思決定には、地域社会の関与がなければならない。

公共図書館は効果的に組織され、専門的な基準によって運営されなければならない。

地域社会のすべての人々が、サービスを実際にもまたデジタル方式でも利用できなければならない。それには適切な場所につくられ、設備の整った図書館の建物、読書および勉強のための良好な施設とともに、相応な技術の駆使と利用者に都合のよい十分な開館時間の設定が必要である。同様に図書館に来られない利用者に対するアウトリーチ・サービスも必要である。

図書館サービスは、農村や都会地といった異なる地域社会の要求に対応させなければならない。また、当該地域の、社会的に排除された集団、特別な支援を必要とする利用者、多言語の利用者、および先住民の要求にも対応する必要がある。

図書館員は、デジタルと伝統的なもの双方で、利用者と資源との積極的な仲介者である。十分な人的資源と情報資源は、図書館員の専門教育と継続教育と同様、現在と将来の課題に対応し、適切なサービスを実践に行うためには欠くことができない。資源が量的・質的に十分かどうかについて、指導層が図書館専門職と協議しなくてはならない。

利用者がすべての資源から利益を得ることができるよう、アウトリーチおよび利用者教育のプログラムが実施されなければならない。

継続的な調査研究は、政策立案者に図書館の社会的な利益を明示するために、図書館のインパクト（影響）や収集したデータの評価を重視しなくてはならない。図書館がもたらす社会の利益はしばしば次の世代に及ぶので、統計データについては長期的に収集しなくてはならない。

連携

連携を結ぶことは、図書館がより広範なより多様な人々と接するために不可欠である。関連する協力者、たとえば、利用者グループ、学校、非政府組織、図書館協会、企業、そしてその他の専門職との地域、地方、全国、国際な段階での協力が確保されなければならない。

宣言の履行

国および地方自治体の政策決定者、ならびに全世界の図書館界が、この宣言に表明された諸原則を履行することを、ここに強く要請する。

ながくら みえこ ながたはら きき
(長倉美恵子・永田治樹・日本図書館協会国際交流事業委員会訳)

原文

IFLA-UNESCO Public Library Manifesto 2022.

<https://repository.ifa.org/bitstream/123456789/2006/1/IFLA-UNESCO%20Public%20Library%20Manifesto%202022.pdf>

[NDC10:016.2 BSH:図書館(公共)]

霞が関だより

▶第235回

◎文部科学省

子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰を開催しました。

文部科学省では、平成14年度から国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている学校、図書館及び団体（個人）を表彰しています。

本年も、「子ども読書の日」（4月23日）を記念し開催した「子どもの読書活動推進フォーラム」内において、表彰式を行いました。

式典では、主催者を代表して築和生文部科学副大臣が挨拶し、来賓の子どもの未来を考える議員連盟の中曽根弘文会長、文字・活字文化推進機構の河村建夫会長、子どもの未来を考える議員連盟の赤池誠章議員、同議員連盟の三ツ林裕巳議員からご祝辞をいただきました。

また、築副大臣が被表彰者の代表に表彰状を授与しました。

【被表彰者代表】

- ・優秀実践校
宮城県岩出山高等学校（宮城県）
- ・優秀実践図書館
清水町立図書館（静岡県）
- ・優秀実践団体（個人）
朗読ボランティア「ひばりの会」（栃木県）

令和5年度は、優秀実践校130校、優秀実践図書館46館、優秀実践団体（個人）50団体（名）の計226件が表彰されました。被表彰者の一覧は以下リンク及び次ページのとおりです。



◀子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰について（報道発表）
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01198.html

式典に続き、秋満吉彦氏と安田登氏を迎え、「子どもが自ら本を読み始めるとき」をテーマにした特別対談が行われました。その後、被表彰者代表による事例発表と、馬場耕一郎氏を交えた対談を行い、最後に各優秀実践校、図書館、団体（個人）に表彰状を授与しました。



▲令和5年度「子どもの読書活動推進フォーラム」チラシ

なお、本年も式典、特別対談、事例発表と対談の様子を、YouTubeでアーカイブ配信を行っておりますのでご覧ください。



◀令和5年度「子どもの読書活動推進フォーラム」
https://www.youtube.com/watch?v=9_a1S84Z9A

[NDC10：019.5 BSH：1.読書 2.児童]

令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰被表彰者一覧

都道府県	学 校 名	図 書 館 名	団 体（個 人）名
北海道	恵庭市立和光小学校	町立様似図書館	マザーズぼけっと
	余市町立大川小学校	千歳市立図書館	リーディング倶楽部たんぽぽ
	奥尻町立青苗小学校		
青森県	青森市立筒井小学校	藤崎町図書館 大夢	親子読書会「わっこの会」
	五所川原市立松島小学校		
	おいらせ町立木ノ下小学校		
岩手県	花巻市立花巻北中学校	一関市立藤沢図書館	読書ボランティア ききみみずきん
	一関市立川崎中学校		
	岩手県立伊保内高等学校		
宮城県	松島町立松島第五小学校	白石市図書館	サークル・アン
	仙台市立大沢小学校		
	宮城県岩出山高等学校		
秋田県	由利本荘市立大内小学校	由利本荘市中央図書館	山本地区読み聞かせの会「あのねのね」
	大仙市立南外中学校		
	秋田県立大曲高等学校		
山形県	村山市立戸沢小学校	鶴岡市立図書館	ひだまりおはなし会
	尾花沢市立尾花沢小学校		
福島県	郡山市立守山小学校	矢祭もったいない図書館	佐藤 史生
	いわき市立小名浜東小学校		
	福島市立湯野小学校		
茨城県	結城市立江川北小学校	小美玉市小川図書館	金砂郷おむすびの会
	かすみがうら市立霞ヶ浦中学校		
	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校		
栃木県	芳賀町立芳賀南小学校		朗読ボランティア「ひばりの会」
	栃木市立寺尾中学校		
	栃木県立石橋高等学校		
群馬県	玉村町立上陽小学校	甘楽町図書館	虹の会
	高崎市立中居小学校		
	フェリーチエ玉村国際小学校		
埼玉県	川口市立里小学校	知識の森嵐山町立図書館	はなぞの
	日高市立武蔵台中学校（4月1日から日高市立武蔵台小中学校）		飯能子どもの本を読む会
	埼玉県立妻沼高等学校		
千葉県	市川市立曾谷小学校	勝浦市立図書館	一宮町絵本とおはなしの会・赤とんぼ
	陸沢町立陸沢中学校	南房総市図書館	
	柏市立柏高等学校		
東京都	あきる野市立西秋留小学校	大田区立図書館	練馬区立図書館ブックスタートの会
	杉並区立松溪中学校	立川市中央図書館	つくしんぼ文庫
	東京都立町田総合高等学校	瑞穂町図書館	
神奈川県	横浜市立本牧南小学校	横浜市中図書館	川崎市立千代ヶ丘小学校図書ボランティアの会
	横浜市立寺尾小学校		平塚市子ども読書活動ネットワーク運営委員会
	大和市立下福田小学校		おはなしクレヨン
新潟県	長岡市立千手小学校	南魚沼市図書館	絵本の会がらがらどん
	新潟県立白根第一中学校		
	新潟県立長岡大手高等学校		
富山県	砺波市立砺波東部小学校	滑川市立子ども図書館	読み聞かせボランティア 真珠の会
	富山市立神保小学校		
	小矢部市立津沢中学校		
石川県	加賀市立錦城小学校	珠洲市民図書館	ボランティアーズ
	白山市立笠間中学校		
	石川県立小松商業高等学校		
福井県	勝山市立荒土小学校	福井県立図書館	朗読サークル Voice
	高浜町立高浜小学校		
	福井県立金津高等学校		
山梨県	韮崎市立韮崎北西小学校	都留市立図書館	アリスの部屋
	富士河口湖町立河口湖北中学校		
	山梨県立ろう学校		
長野県			健診時読み聞かせスタッフ ミルフィーユ
岐阜県	岐阜市立西郷小学校	恵那市中央図書館	よみきかせボランティア ひだまり
	多治見市立北陵中学校		
	岐阜県立岐阜工業高等学校		
静岡県	御殿場市立原里小学校	清水町立図書館	夢ポケット
	浜松市立中郡小学校		
	桐陽高等学校		
愛知県	田原市立野田小学校	犬山市立図書館	設楽朗読の会あうん
	瀬戸市立にじの丘小学校・瀬戸市立にじの丘中学校		
	愛知県立常滑高等学校		
三重県	松阪市立香肌小学校		お話の国アリス
	四日市市立塩浜小学校		
	三重県立城山特別支援学校		

滋 賀 県	栗東市立葉山小学校		市島 恵子
	米原市立大東中学校		
	滋賀県立堅田高等学校		
京 都 府	亀岡市立祥徳小学校	京都市洛西図書館	長岡京おはなしの会 “ささぶえ”
	福知山市立大江小学校・福知山市立大江中学校		
	京都市立北野中学校		
大 阪 府	泉大津市立戎小学校	大東市立図書館（中央図書館、西部図書館、東部図書館）	やまびこ
	学校法人創価学園関西創価小学校	東大阪市立図書館	
	八尾市立曙川中学校		
兵 庫 県	朝来市立糸井小学校		
	洲本市立由良中学校		
	兵庫県立八鹿高等学校		
奈 良 県	生駒市立桜ヶ丘小学校	桜井市立図書館	上牧おはなし会 ピーターパン
	大和郡山市立矢田南小学校		
	奈良県立青翔高等学校		
和歌山県	和歌山市立砂山小学校	湯浅町立図書館	
	上富田町立市ノ瀬小学校		
	和歌山県立箕島高等学校		
鳥 取 県	江府町立奥大山江府学園	大山町立図書館	
	北栄町立北条中学校		
	鳥取県立倉吉総合産業高等学校		
鳥 根 県	雲南市立掛合小学校	隠岐の島町立隠岐の島町図書館	おはなしレストラン
岡 山 県	岡山市立御南小学校	玉野市立図書館	勝央民話を語る会 ちゃんちゃんこ
	奈義町立奈義小学校		
	岡山県立高梁高等学校		
広 島 県	庄原市立庄原小学校	東広島市立安芸津図書館	おはなし会 ダンボ
	海田町立海田南小学校		
	広島県立府中東高等学校		
山 口 県	下関市立向井小学校	岩国市中央図書館	麻の会
	周南市立岐陽中学校		
	山口市立大殿中学校		
徳 島 県	三好市立王地小学校	阿波市立阿波図書館	認定特定非営利活動法人「ふくろうの森」ありんこの会
	鳴門市大麻中学校		
	徳島県立徳島聴覚支援学校		
香 川 県	高松市立川東小学校	高松市国分寺図書館	おはなし会「こそあど」
	三豊市立下高瀬小学校		
	香川県立香川中部養護学校（4月1日から香川県立香川中部支援学校）		
愛 媛 県	四国中央市立栗川小学校	四国中央市川之江図書館	北伊予小学校読書ボランティア
	松山市立高浜中学校		
	愛媛県立宇和島東高等学校		
高 知 県	いの町立伊野南小学校	梶原町立図書館	おはなし玉手箱
	高知県立盲学校		
福 岡 県	宇美町立宇美小学校	みやま市立図書館	那珂川市立小・中学校読書ボランティア連絡会
	古賀市立古賀北中学校		おおむた読書推進ボランティアネットワーク
	福岡県立福岡中央高等学校		
佐 賀 県	嬉野市立塩田小学校	佐賀県立図書館	小城ルーテルこども園「めぐみ」
	佐賀市立中川副小学校		
	吉野ヶ里町立東脊振小学校		
長 崎 県	長崎市立朝日小学校	南島原市原城図書館	グループ たんぽぽ
	佐世保市立山手小学校		
	長崎県立西陵高等学校		
熊 本 県	熊本市立河内中学校	上天草市立中央図書館	吉川 和子
	熊本県立八代農業高等学校		
大 分 県	竹田市立豊岡小学校	九重町図書館	紙芝居文化の会おおい
	別府市立別府西中学校		
	大分県立別府鶴見丘高等学校		
宮 崎 県	えびの市立上江小学校・えびの市立上江中学校	高千穂町立図書館	図書館ボランティア「友の会」
	宮崎県立延岡高等学校		
	宮崎県立明星視覚支援学校		
鹿児島県	出水市立米ノ津東小学校	指宿市立山川図書館	ストーリーテリングの会「おはなしの森」
	中種子町立油久小学校		
	始良市立蒲生中学校		
沖 縄 県			與古田 八重子

表彰数：計226件（内訳）学校：130件、図書館：46件、団体（個人）：50件

★IFLAロッテルダム大会へのおさそい 1

オランダ公共図書館

— 図書館カードさえあれば社会とつながれる —

吉田右子

オランダは北欧と同様、福祉や文化への公的支援が手厚いことで知られ、そうした公的援助を積極的に享受すると同時に徹底した個人主義を追求する人びとが暮らす国として知られる。そんなオランダの公共図書館について紹介したい。

オランダの公共図書館には、世界でも稀に見る有料会員制度がある。この制度に関しては新自由主義の影響によるものと誤解されることが多いのだが、それは事実とは異なっている。オランダで公共図書館制度が確立したのは20世紀初頭のことであったが、当時の図書館は自治体の公的機関ではなくコミュニティの私的読書施設だった。施設は趣旨に賛同する有志のメンバーによって運営され、運営経費もメンバーが出し合っていた。その後、自治体の補助を受けつつも、公共図書館において会員制度を基盤とする自律的な運営が継承され、今日に至る。

つまり、オランダでは公共図書館の誕生から現在まで一貫して会員制が保持されてきたのである。そして大切な点は、ほとんどの図書館には、難民への会費免除制度や経済困窮者への会費割引制度が設けられていることである。

2014年に制定された「公共図書館サービス法」第4条では、図書館の公共的価値を「独立性、信頼性、アクセス可能性、多様性、公正性」とし、これらの価値に基づいて図書館の任務を遂行すると定めている。また第5条で図書館の機能として「集会および議論の場の提供」があげら

れていることからわかるように、図書館は読書のみならず、地域住民が集い議論する公民館のような機能を有している。

公共図書館では法律に定められた図書館の価値や機能を踏まえて、識字能力が低い住民、高齢者、失業者、移民・難民、非市民、読字困難者といった社会から疎外されがちな人々が、文化や芸術に接触するためのサービスをとりわけ重視している。

オランダの公共図書館の見どころはなんといっても建築や館内のしつらえにある。街に古くからある建物をリノベーションして公共図書館として使うケースも多い(写真1)。誰もが知っている建物が図書館に生まれ変わることで、住民は図書館への愛着心を強くする。建物には人びとの記憶が残されているため、記憶と共に図書館が存在していくことはコミュニティの記憶の継承にも一役買っている。



写真1. 図書館は元チョコレート工場
(ゴータ図書館)

そして館内に入っていくと、ほのかに薄暗く心地よい空間が広がり、そこにはダッチデザインと呼ばれる機能性と美しさが調和したテーブル

や椅子が並んでいる。多くの公共図書館には一見スペースの無駄にも見える階段がある(写真2)。利用者は自然とそのスペースに吸い寄せられおしゃべりが始まることも多い。もちろん読み聞かせスペースとしても、階段は最適の場所である。



写真2. 図書館内の巨大な階段
(ゴータ図書館)

アムステルダム中央図書館はこのようなユニークで楽しいオランダの公共図書館を凝縮した場所として知られる。近隣の住民はもちろん、オランダに来たばかりの移民や旅行者など、誰にとっても敷居が低く居心地がよいこの図書館は、近年北欧の都市部に次々と誕生している大型公共図書館の先導モデルでもある。最上階にはBabelと呼ばれるレストラン・バーがあり、テラスでの食事を楽しむ人でいつも賑わっている。

写真出典：吉田右子『オランダ公共図書館の挑戦：サービスを有料にするのはなぜか？』新評論，2018年，p.192，233。

(よしだ ゆうこ：

筑波大学図書館情報メディア系)

[NDC10：016.2359

BSh：図書館(公共)－オランダ]



お宝紹介!

第232回
愛媛大学図書館

「愛媛大学鈴鹿文庫」 について

上山朋子

1. はじめに

国立大学法人愛媛大学は、現在七つの学部と対応する大学院、多数の研究センター等があり、学生約9,200人、教職員約2,300人の総合大学です。

愛媛大学図書館（以下「当館」）は、昭和24（1949）年、愛媛大学の設置と共に開館し、現在は松山市の城北キャンパスに中央図書館、樽味キャンパスに農学部分館、東温市の重信キャンパスに医学部分館があり、学生と教職員へのサービスを行っています。全館で約100万冊の蔵書があり、その中にはさまざまな貴重資料も含まれます。今回は、その中から「愛媛大学鈴鹿文庫」をご紹介します。

2. 「愛媛大学鈴鹿文庫」について

「愛媛大学鈴鹿文庫」は鈴鹿三七氏の旧蔵書で、神道関係資料を中心に、物語、随筆、日記類を含み、国学関係の書写本、板本、複製本、活字本、軸物、箱物等からなります。昭和50年代初めに縁あって^注当館が一括購入（一部受贈）しました。

中世以降の京都の神道家である鈴鹿家は歴代書物を収集し、貴重な資料を多数所蔵、京都大学所蔵の国宝「鈴鹿本今昔物語集」も、鈴鹿家の旧蔵本です。また、鈴鹿家旧蔵書は他の図書館等にもあり、特に有名なのが大和文華館所蔵の「鈴鹿文庫」（『国書総目録』で「鈴鹿」とされるもの）で、こちらは、三七氏とは同族別家の鈴鹿義一氏の旧蔵書です。また、明治大学博物館刑事部門、皇學館大学等でも鈴鹿家旧蔵書を所蔵されています。

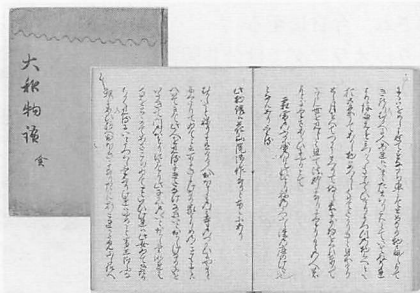
当館では、国文学研究資料館のご協力により、平成15（2003）年度から鈴鹿文庫のデジタル化事

業に着手しました。江戸期以前の資料中心に撮影を進め、予定していた約900点のデジタル化が令和3（2021）年度に完了し、「新日本古典籍総合データベース」（現「国書データベース」）で公開、当館の「貴重書」Webページでも、撮影済の全画像を公開しています。

3. 資料紹介

・鈴鹿本「大和物語」

「鈴鹿本大和物語」とは、当館所蔵の資料を指し、流布本である二条家本系統とは本文に異同があります。鈴鹿本と同系統に属する他の写本は「御巫本」（みかなぎぼん＝天理大学附属天理図書館所蔵・御巫氏旧蔵本）のみとされています。当館所蔵本の書写年代は室町中期以降から江戸期とされ、手蹟は整って美しく、虫損も少ない、大変状態の良い貴重な写本です。



▲大和物語表紙＋「この物語は花山院御作なり…」

・天治本「新撰字鏡」写本

「新撰字鏡」は国産最古の漢和辞書とされ、10世紀初頭に成立、約20,000字の漢字を部首で分類し、3,000語以上に発音や意味について和訓（万葉がな）

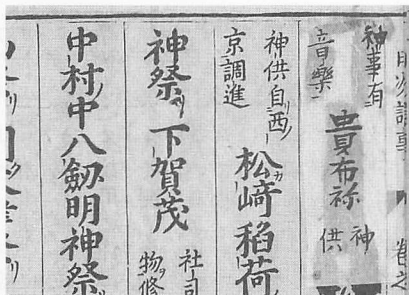
での説明がある資料です。幕末以前は抄録本のみが知られ、完本は未確認でした。しかし、三七氏の曾祖父であり、神道学者、国学者、歌人でもあった連胤（つらたね）氏が、天治年間の写本の巻2と巻4を入手し、それが他の巻の発見につながりました。その後、明治13（1880）年に鈴鹿家からの2巻も含め全12巻が内務省（皇室博物館）へ献上されました。当館所蔵本はこの天治本の写本5冊（篇立、巻1、2、4、12）です。これは連胤氏の手になるものと思われ、虫損甚だしい部分のその跡まで再現されており、現在は修復されている原本の、修復前の状態を残す珍しい資料です。



▲新撰字鏡の虫損再現部分の拡大

・「日次紀事（ひなみきじ）」

「日次紀事」は江戸前期の京都を中心とした年中行事や世相を月次、日次に編集した書物で、出版と同時に絶版となり、現存するものの多くは写本です。当館所蔵本は貞享年間の刊本で、しかも全巻欠けることなく揃っており、大変貴重なものです。出版時の事情で黒塗りされた部分は三七氏の付箋補訂により補われ、その付箋も現在の研究の基本資料となっています。



▲日次紀事・三月黒塗り部分への付箋を拡大

・「住吉物語」－未完成の奈良絵本

「住吉物語」は作者不詳の物語で、長く読み継が

れてきたものです。当館所蔵本は室町末頃のものと思われますが、絵が無い「奈良絵本」です。簡便なこよりの仮綴じ、他の奈良絵本では挿絵の直前に入る散書の次が白紙、挿絵が入ると想定される箇所片側の切り取り糊づけの跡等から、完成時には20か所以上挿絵が入る予定だったことが分かります。本文の背景に金泥で草花等の模様が入り、公開画像では、その模様や、挿絵が入る予定の部分等を拡大表示することができます。ぜひWebページでご確認ください。

4. おわりに

デジタル化完了を機に本学の小助川元太教授による学術講演会「愛媛大学鈴鹿文庫の魅力」を令和5（2023）年2月に開催しました。講演の中で「大学という教育・研究機関が学術的に意義のある貴重な資料を所蔵し、研究のための利用が可能であることは大変意義がある」との示唆もあり、今後も原本を大切に保管しつつ、デジタル画像等で一般の方にも広く利用していただけるよう、力を尽くしてまいります。

当館の「貴重書」Webページでは、ご紹介した資料も含め、他の鈴鹿文庫資料、またそれ以外の貴重資料も多数掲載しています。当館ホームページ「ショートカット」のリンクから、ぜひ一度ご覧になってください。

なお、拙稿の資料紹介は同教授の講演内容を参考にさせていただきました。改めて感謝申し上げます。

■愛媛大学図書館ホームページ

<https://opac.lib.ehime-u.ac.jp/>

■注

下記2文献を参照：掲載は愛媛大学鈴鹿文庫Webページ

<https://opac.lib.ehime-u.ac.jp/SUZUKA/>

・福田安典（2018）『古典書写伝来の「家」：鈴鹿文庫』

・鈴鹿文庫貴重書展実行委員会（2018）『愛媛大学図書館 鈴鹿文庫貴重書展』展示解説

■参考文献

・糸井通浩解題（1981）『鈴鹿本大和物語』（和泉書院影印叢刊28）和泉書院、p.207-208

・高橋忠彦・高橋久子（2006）『日本の古辞書：序文・跋文を読む』大修館書店、p.2-18

・田村憲治編（1981）『住吉物語』（愛媛大学古典叢刊30）愛媛大学古典叢刊行会、p.185-197

（うえやま ともこ：愛媛大学図書館）

[NDC10：090 BSH：1. 稀書 2. 愛媛大学図書館]

図書館員のおすすめ本⑦8

子どもの文化人類学

原ひろ子著 筑摩書房（ちくま学芸文庫） 2023 ￥1,000
（税別）

図書館に来る親子を見ていると、何でも本を使って教えようとする傾向が年々強くなっているのでは、と感じる。トイレトレーニング、歯磨き、友達と仲良くする……あらゆる事柄について、わかりやすく楽しく子どもに教える本を求められる。そんなことを思っていたところ、この本が目に残った。1979年に晶文社より刊行された本が、40年以上の時を経て文庫化されたものだ。

著者は1960年代に北極に近いカナダ北西部に住むヘヤー・インディアンと共に生活し、延べ11か月にわたる実地調査を行った。本書はその暮らしの中で見聞きしたことを、他国の事例や著者自身の子育て経験とも照らし合わせ、社会の中で子どもがどのように育っていくのかを考察したエッセイである。

学びに関して例を挙げると、ヘヤーの大人たちは、小さな子どもが刃物を持っても見守るだけ。多少の危険があってもあえて手出しをしないことで、子どもたちは自分で試行錯誤しながらさまざまな技術を習得していく。一方、泳ぎに関しては、信仰の理由もあって習得機会が与えられることはない。そのような子どもたちの姿を見て著者が感じたのは、子どもは無限の可能性を持っているということ、子育てとはそれをある方向には伸ばし、別の可能性は抑えてしまう、ということだった。

また、ヘヤーの人たちには人から物を「教わる」という概念がないという。一方で日本の子どもたちは「教えられる」ことに忙しすぎるのでは、そのことによって自発的に学ぶ喜びを得にくくなっているのでは、と著者は述べている。現在の私たちとは時代も生活様式も全く違うヘヤー・インディアンの人々の学びから教えられることがあると感じた。子どもが好奇心のままに自分のペースで学ぶことを支援する。そのことは、近年ますます重要になってきているのではないだろうか。

おの でらちあき
（小野寺千秋：東京都中央区役所）

多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。

Jamマンガ・文 名越康文監修 サンクチュアリ出版
2018 ￥1,100（税別）

人生に悩みはつきもの。何かのCMではないけれど、みんな悩んで大きくなった。とはいえ、近年はSNSが普及したことで、今までは考えもしなかったような悩みも増えてきた。そんなときに読んでほしいのがこの本だ。

著者は心理カウンセラーなどの専門家ではないが、とても悩み多き人で、心理学や哲学の本を読みあさるなどいろいろな方法を試してみたが、なかなか効果が上がらなかった。しかし、ある日友人が口にした何気ないひとことが著者を救ったのだ。それが本書のタイトルになった。この本には、著者が見つけた「嫌な気持ちを引きずらないための考え方のコツ」が、全部で64個書かれている。

本書は、四つのカテゴリに分けられている。「SNSのモヤモヤ」、「人間関係のモヤモヤ」、「職場のモヤモヤ」、そして「自分のモヤモヤ」だ。紹介されている64個のコツは、そのカテゴリに分類され、それぞれ2ページ（ときどき4ページ）で解説されている。最初の1ページ目に関連する4コマ漫画があり、次のページに著者の考え、そして最後にゴシックの活字でその話題に対応したコツが箇条書きで示される。だから本書は、ページを追って最初から読んでもいいし、目次を見て気になる話題を拾い読みしてもいい。

最後に、「SNSのモヤモヤ」に関連したことだが、2011年6月からサービスを開始したLINEに「既読」がつけられるようになったのは、小林直樹氏（日経クロストrend記者）によると、東日本大震災の経験を教訓としているそうだ。あのとき、みんなの安否確認がもっと迅速にできないかという思いがあり、つけるようになった。だから、すぐにリアクションするためにSNSの通知に敏感になったり、既読スルーの友だちをいじめたり、メッセージが返ってこないことにイライラしたりするのは、本末転倒なのだ。

かさがわしやうじ
（笠川昭治：神奈川県立茅ヶ崎高等学校）

図書館員のおすすめ本⑦8

本屋で待つ

佐藤友則, 島田潤一郎著 夏葉社 2022 ¥1,600 (税別)

広島の山間部, 人口約7,000人の小規模な町にある本屋「ウィー東城店」。過疎化が進む地域において, 数々のユニークな試みにより赤字だった店を立て直したのが元店長の佐藤さんだ。

地域には高齢者も多く, 困りごとがあれば本屋にやってくる。電気機器の修理から年賀状の印刷まで, 利益度外視で相談や要望の一つひとつに丁寧に耳を傾け, 解決策と一緒に探る姿は熟練のレファレンサーさながら。コツコツと信頼関係を築いていくうち, 本屋はさまざまな役割を担うようになる。美容室の併設, 敷地内のコインランドリー, 化粧品や文具の他に食品を取り扱うなど, 地域に根差した複合書店へと徐々に進化していく。

また, 不登校になった子のバイトの受入先となることだってある。コミュニケーションを図るのが苦手な, なかなか仕事に慣れない彼らに対して佐藤さんはすぐに成果を求めない。相手の気持ちを尊重し, 動き出すのをゆっくりと待つ。そして, 数人を社員として登用し, ついにはそのうちのひとりに店長の仕事を潔く引き継いでしまった。

「ぼくは昨日よりもよい店づくりをしたいし, 一週間前よりも風通しのいい会社をつくりたい。そうすれば, 従業員たちはもっと気持ちよく働けるはずだし, お客さんもウィー東城店をもっと気に入ってくれるはずだ。」(p.131-132)と佐藤さんは言う。その言葉の先には確かな希望が見える。

地域の中で困りごとを抱えた人たち, 学校や社会になじめない人たちを取り残すことなくあたたかく迎え入れ, 心の拠り所となっている本屋が実在する。その事実は図書館の持つ可能性をも広げてくれるものであり, 働く者たちに大きな刺激をもたらすだろう。よりよい明日のために自分は何かをすればよいか, 何ができるのか。本屋の話ではあるが, 図書館のこととして置き換えて読み進めてみてほしい一冊。

(矢野垂希子: 熊本県菊陽町図書館)

カンマの女王 「ニューヨーカー」校正係のここだけの話

メアリ・ノリス著 有好宏文訳 柏書房 2021 ¥2,000 (税別)

書店でこの鮮やかな表紙を目にしたとき, なんと力強く, 魅力的なタイトルだろうと思った。真剣なまなざしでゲラを見つめ, 鉛筆で鋭くカンマをうつ女性の姿が, 目に浮かぶようだった。

私は外国の出版事情にも詳しくなければ, 英語ができるわけでもない。それでもこの本を薦めたいのは, 一度でも言語に興味を持ったことのある人ならば, あるいは文章の読み書きを楽しんでいる経験がある人ならば, 共感し, 感嘆し, 楽しめる内容だと感じたからだ。

著者のメアリ・ノリス (Mary Norris) は『ニューヨーカー』誌で働く校正者だ。30年以上にわたって記事のゲラを読み, 言葉と向き合ってきた。本書では, 誤植やスベリング, 句読法や文法の疑問点が, 校正上でのさまざまなエピソードを交えて書かれていく。著者のユーモラスな文章を楽しみつつ英語の文法や記号の正しさを味わえる, ある種文法書のような側面も魅力である。

英語ゆえのおもしろさもあるが, 日本語ではどうだろうかと考えて読むのも楽しい。句読点ひとつで意味が変わる文章, 誤用のまま広まっている慣用句の扱いの難しさは英語だけの話ではない。(たとえば「5章 カンマは気まぐれ」に引用される「We invited the strippers, JFK and Stalin. (われわれはストリッパーたち, J・F・ケネディとスターリンを招待した。)」(p.125)のおもしろさは, 日本語の読点でも起こり得る。)

なお, 本書の原著タイトルは『Between You & Me: Confessions of a Comma Queen』(2015)で, ベストセラーとなった。なぜ「ここだけの話」(Between You & Me)なのか。オリジナル版では表紙に大きく書かれているこの慣用句の意味も, 本書を読めばわかるはずだ。

(たかはしまゆり: 東京都立中央図書館)

[NDC10: 019.9 BSH: 書評]

声—各地の代議員から④

一歩踏み出す

石川靖子

右も左もわからないままに、自ら立候補し個人会員選出代議員のお役目をいただき1年が過ぎようとしている。県の代表としての目覚ましい働きをすることは難しいと思いつつ、これもひとつの経験として活動したいと思う。

私は非正規雇用の図書館員である。今や図書館で働く7割が非正規という中で、現状の制度に改善を求めることはもちろんだが、個々人の心持ちを少し上げることで、図書館界全体にプラスの変化が起こるのではないかと考える。心持ちを少し上げる、とは、自信を持つことだと思う。経験と知識の蓄積は司書の専門性を高めることで、自分に蓄積されるものが少しずつ増えることが自信につながると思う。その手段のひとつが、研修の機会を自ら得て学ぶこと、そしてその機会に多くの仲間をつくることだと思う。

そこで利用したいのが日本図書館協会（以下、「協会」）等が主催する大会や研修だ。全国図書館大会は毎年行われ、各地での開催も魅力的である。今年は岩手県！各地区で開催される大会への参加もいい。今、図書館でどんなことが話題になっているのかを知る機会になる。研修は図書館基礎講座や地区別研修、中堅職員ステップアップ研修、児童図書館員養成専門講座などさまざまなものがある。日々の業務に追われて研修どころではないと考える人もいるかもしれない。でも、少し未来を想像してみてもいい。その場で、そのまま自分は成長できるかどうかと（もちろん、知識ある先輩方に囲まれ、自館での研修機会が豊富なところで働く人はいるかもしれない）。館内で参加者を募っていたら手を挙げよう！募っていなかったら自分で参加してみよう！外に出て学ぶことで得るものは大きい。そこで得た知識も仲間も必ず自分を助けてくれる。協会には益々のさまざまな研修機会とそれらの広報を求めたい。

（いしかわ やすこ：秋田県個人会員選出代議員）

〔NDC10：010.6 BSH：日本図書館協会〕

小さな声から変化を

三田祐子

私は司書として20年、図書館に勤務してきたが、その間、図書館を取り巻く環境は大きく変化した。リカレント教育は重要であり、日本図書館協会（以下、「協会」という。）が実施する研修等は専門知識や最新テーマについて理解を深めることができ、業務の助けとなってきた。近年はコロナ禍でオンライン受講が可能となり、地方に居ながら受講できる研修の機会が増加している。このようなオンラインの便利さに助けられつつも、やはり人と直接会って話すことがいかに大切かを痛感している。以前のように全国の図書館員が集える日が早く来てほしいと願っている。

さて、前置きが長くなったが、1年目の代議員として、今思うことを少し書いてみたい。研修機会については先に触れたが、このような協会の活動は全国の多くの図書館員によって支えられている。アウトプットされた情報を当たり前のように活用してきたが、会員である私たちは協会の活動を支えるという意識を持てているだろうか。私が司書として歩みだしたとき、先輩司書の姿を見て多くを学んだ。協会でも、現在、協会の役割を担っている図書館員と次の世代を担う会員（希望者）と一緒に活動する機会を提供できないだろうか。自ら考え行動する会員の学びの機会が広がると感じている。

一方で会員の確保の問題もある。鳥取県でも会員ではない図書館員は多い。図書館に関わる人たちは学生もいれば、非正規雇用職員、正規雇用職員もいる。協会から発信される情報を待つだけでなく、異なる立場や年代の会員がいつでも気軽に交流できる場等、会員が発信者となれる仕組みが必要だと感じている。

思いつきの粹をでない提案だが、小さな声（気づき）も協会へ届けていきたい。私の役割は、地方から声を届けることだと思っている。

（みた ゆうこ：鳥取県個人会員選出代議員、

鳥取県教育委員会事務局）

小規模 図書館 奮戦記

その302 三重県・木曽岬町立図書館

図書館が紡ぐ 人と人との三つの「わ」

—「輪・和・話」の
醸成を目指して—

諸戸勝己



の会場として利用している点が挙げられます。これは、コミュニティ・スクールの一環として、保護者や地域の方々が園・学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となって地域の特色や資源を生かした教育を行うことにより、地域全体で子どもたちの「学び」と「育ち」を支える体制を目指すものであり、本町では青少年育成町民会議の家庭教育部会が中心となり、2018年3月に組織化されました。主な活動内容は、園児から中学生までの児童・生徒とその保護者を対象とした星空観察会やお寺での坐禅体験のほか、中学生への学習支援などを行っており、この学習支援を図書館内の学習室で定期的に関講しています。学習支援員には、教員OBで木曽岬小中学校の元校長のほか、本町出身の高校や大学の講師などが交通費の支給のみで交代で務めており、定期テスト直前の夕方には中学生が分からない箇所を熱心に質問する様子が見られます。

小さな町の小さな図書館ではありますが、図書館で読書や生涯学習を通じた学びの「輪」ができ、お互いの趣味や活動を尊重し合う「和」を形成し、人と人が「話」でつながる場所となることを目指し、スタッフは今日も奮闘しています。

(もと かつみ: 木曽岬町教育委員会)
[NDC10: 016.2156]

BSH: 木曽岬町立図書館

〈図書館の概要〉

木曽岬町立図書館は、2018（平成30）年1月に開館しました。蔵書数は約34,000冊（2023年4月末現在）と小規模ではありますが、特産品のトマトに関する書籍を多数取り揃えるなど特色ある図書館づくりに取り組んでおり、多くの町民に利用していただいています。管理運営業務は、町の会計年度任用職員1名と民間委託による司書1名の2名体制で行っています。開館時間は通常10時から18時（休日は9時から17時）ですが、金曜のみ12時から20時としており、仕事帰りに気軽に立ち寄れる時間としています。

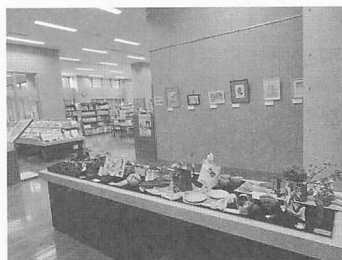
〈利用者と作り上げる図書館〉

図書館では、「利用者とともに作り上げる図書館」をコンセプトに図書館運営に協力していただくサポーターを募集しています。手芸サポーターには町のキャラクター「トマッピー」を縫い付けた座布団や大型絵本の貸出バッグを制作していただいたり、整理サポーターには蔵書点検時に手伝いをしていただくなど、それぞれが得意なことや興味がある分野のできる範囲で協力していただいています。これらサポーターのおかげで図書館スタッフだけではできな

いことや、より地域に密着したサービスを提供できています。

〈生涯学習の場としての図書館〉

本館の特色として、図書館内に「郷土文化交流スペース」があることが挙げられます。これは、「多種多様に機能する地域密着型の図書館」とすることを目指し、主に町の文化協会の加盟団体が月単位で作品を展示して来館者に生涯学習の成果を発表する機会としています。その他、小中学生の修学旅行新聞や園児たちの作品展示のほか、放課後子ども教室の指導員としての活動実績もある図書館職員によるワークショップを定期的に行うなど、展示だけでなく町民の文化活動を支える場としても機能しています。



〈利用促進の取り組み〉

もう一つ、図書館の利用促進の取り組みとして「木曽岬子ども未来塾」

図書館員の本棚

小さなまちの奇跡の図書館

猪谷千香著

東京：筑摩書房

2023. - 190p : 18cm

(ちくまプリマー新書 : 419)

ISBN : 978-4-480-68444-8 : ¥800 (税別)

NDC10 : 016.21

BSH : 図書館(公共) - 日本



「人生が変わる図書館」。本書のプロローグはこのようなフレーズで始まる。著者の猪谷千香さんは、2014年に『つながる図書館－コミュニティの核をめざす試み』(ちくま新書)を上梓して以来、さまざまな媒体に図書館関連の論稿を発表しているライブラリー・ジャーナリストと呼んで差し支えない文筆家である。

その猪谷さんが指宿市立図書館の指定管理者であるNPO法人「そらまめの会」の当事者や指宿、山川両図書館の利用者、その他さまざまな市民に対して、極めて丁寧な取材を取行し上質なルポルタージュにまとめあげた。その筆致は登場する人物に肉薄し、読者を奇跡の図書館の物語へと引き込む。

ことの発端は指宿市が指宿図書館と山川図書館に指定管理者制度を導入すると発表した2006年にさかのぼる。当時の指宿図書館は電算化されておらず、2005年に移動図書館車も廃止され、図書館は3自治体合併による新指宿市での存在感を発揮するどころかどんどん魅力を失いつつあった。

指定管理者制度が導入されれば、人材や経験は豊富であっても、指宿市に縁もゆかりもない民間企業が請け負うことになる可能性が高かった。慣れ親しんだ図書館が変わってしまうかもしれないという人々の不安が当時、保育士だった下吹越かおるさんのもとに届いたという。図書

館職員や図書館を支えていた人々から図書館運営を担ってほしいという熱意が寄せられていたのだった。悩みに悩んだ下吹越さんとその仲間は「誰かがやらなければならない道だった。人生を賭けるしかない」と、NPO法人「そらまめの会」として指定管理者となることを決断する。

その後、「そらまめの会」による運営の開始がいかに過酷なものであったかが、下吹越さんたちから語られる。「明日から私たちは本当に図書館を運営できるのか、心配だらけでした。不安で胸が押しつぶされそうでした」と吐露する。

除籍されないまま書架にあふれる本、未整理の地域資料の山、さらには雨漏りなど、図書館運営はマイナスからのスタートだった。そんな「そらまめの会」の挑戦は、清掃と修繕への対応から始まった。館内外を掃除し、ほこりが積もっていた照明器具も磨き上げた。除籍がされずあふれかえった本を収納するため、屋上屋を重ねた書架が窓からの外光を遮っていた。汚破損した本や情報の古い本を丁寧に取り除き、書架を取り除くと館内に光が行き渡るようになった。「明るくなったわね。どんな魔法をかけたの?」と利用者から声をかけられた。この後も、図書館イベントの運営の工夫や住民に寄り添うサービスがいかにして行われたのかなど「そらまめの会」の奮闘ぶりがインタビューの生々しい証言と

もに語られる。

このような指宿図書館の「今」がなぜ生じているのかについて、猪谷さんの眼差しは歴史的な背景に注がれる。指宿の地名の由来から、大正期に「通俗教育会図書館」として始まった指宿村の図書館の初動、そして鹿児島県立図書館による「巡回文庫」の支援活動にもその視点は及ぶ。また戦後の昭和30年代、女性が本を読むことにまだ偏見と差別が根強かった時代に、指宿図書館に「柳和母親読書グループ」が生まれ、『文芸いぶすき』への連関が綴られる。

猪谷さんは、指宿という土地で住民と図書館が読書というものに連綿と向きあってきた歴史を示し「そらまめの会」の無謀とも思える挑戦は、こうした民衆史の必然として現前しているのだと暗示する。「そらまめの会」が担ったものは、行政施策としての公共図書館という制度的価値ではなく、本に学び、知識を分け合うことで自立と民主主義を醸成しようとする地に足の着いた民衆による図書館の擁護と成長への希望なのであった。ここで繰り広げられた物語は、奇跡のように尊い。しかし、だからこそ、この営みを奇跡に終わらせない行政の責任ある公共的振る舞いを期待せずにはいられない。

(しまだ まなみ 学：京都橘大学)

会員募集のご案内—会員の皆さまへ

日本図書館協会（JLA）では正会員，準会員，賛助会員を募集しております。

本法人は，全国の図書館の発展，文化の進展を図る事業を行うことにより，人々の読書や情報資料の利用を支援し，もって文化，学術，科学の振興に寄与することを目的としています（定款第3条）。

これからの日本の図書館界に清新な活力を注いでくださる皆さまのご参加を求めています。会員の皆さまにおいては積極的な勧誘をよろしくお願い申し上げます。

詳細については本法人ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/membership/tabid/270/Default.aspx>



日本図書館協会の活動を豊かなものにするために

ご寄附のお願い

本法人は，全国の図書館の進歩・発展を図るため，図書館運営の支援および政策提言，図書館職員の育成並びに研修・講習や図書館運営に関する調査・研究・資料収集，機関誌等の刊行など，図書館活動を通じたさまざまな事業を展開しています。

こうした公益目的にかなう事業のさらなる充実を図り，21世紀のよりよい文化的社会を築いていくため，広く市民や会員の皆さまからのご寄附を受け付けております。

なお，本法人への寄附金には特定公益法人としての税制上の優遇措置が適用され，所得税・法人税の控除が受けられます。

詳細については本法人ホームページ「ご寄附について」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>



charibon^{チャリボン} by V.B.

あなたの本のご寄附が全国の図書館を支えます。

皆様の読み終えた本が図書館をサポートする活動に役立ちます。ご提供いただいた書籍、CD、DVD等を提携会社が買い取り、代金が日本図書館協会への寄附金となります。段ボールに詰めてご連絡ください。5冊（点）以上なら送料はかかりません。



古本を寄附
書籍類を梱包

集荷
配送会社

仕分け・査定
VALUE BOOKS

ファンドレイジング
日本図書館協会

5冊から送料無料

買取相当額の寄附

<https://www.charibon.jp/partner/jla/> TEL:0120-826-295（バリュブックス）



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名）注記 ISBN 価格 NDC 記号」

要覧：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種、テーマによる NDC 記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC 記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係

図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

図書館と情報技術 検索技術者検定3級対応 3訂 田窪直規編集 岡紀子 [ほか] 著 樹村房 2023.03 172p 26cm 978-4-88367-374-2 ¥2200 010.7

図書館資料の保存と修理 その基本的な考え方と手法 眞野節雄講義録 眞野節雄著 日本図書館協会 2023.03 83p 21cm (JLA Booklet 13) 978-4-8204-2218-1 ¥1000 014.6

資料を護り、未来の利用者へ残すために 資料の共同保存と除籍を考える（調査研究報告書）北海道図書館振興協議会調査研究チーム編集 北海道図書館振興協議会 2023.03 37, 51p 30cm 事務局：北海道

立図書館企画支援課 016.211

東日本大震災記録集2021 宮城県内図書館および読書施設の歩み 宮城県図書館編刊 2022.04 224p 30cm 016.2123

図書館と県民のつどい埼玉2022 みんなが図書館でつながる日記録集 2022 埼玉県図書館協会編刊 2023.03 24p 30cm 開催日：2022年12月10日-11日 (Zoom オンライン開催) 016.2134

古都鎌倉へのまなざし1950-1985 時を見つめた写真家たち 鎌倉市中央図書館編 野崎印刷紙器 2023.03 255p 29cm 978-4-600-01183-3 ¥3000 016.2137

愛知県図書館開館30周年記念誌 愛知芸術文化センター 愛知県図書館編刊 2023.03 114p 30cm 016.2155

アンフォーレのつくりかた 図書館を核としたにぎわいの複合施設 岡部晋典編 樹村房 2023.02 320p 21cm 978-4-88367-376-6 ¥2800 016.2155

大阪公共図書館大会記録集 2021（第69回）大阪公共図書館協会編刊 2022.03 85p 30cm 開催形式・時期：YouTubeによる動画配信、2022年2月10日～24日、テーマ：公共図書館におけるDXとはーオンラインサービスを中心に 016.2163

年報こどもの図書館 2017～2021 2022年版 児童図書館研究会編 日本図書館協会 2023.03 493p 26cm 内容：特集 コロナ禍と子ども 978-4-8204-2215-0 016.28

学校図書館を探検しよう！ 宍道勉[文]、八重山みほ[絵] 知活舎 2023.03 31p 26cm 017

みんなで使おう！学校図書館「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」報告集 VOL.14 東京学芸大学学校図書館運営専門委員会編集 東京学芸大学附属学校運営部 2023.03 44p 30cm 令和4年度文部科学省事業 読書推進活動事業 017

学術情報基盤実態調査結果報告 令和4年度 2022～2023 文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付 2023.03 169p 30cm 017.7

スペイン風邪と闘った人々の暮らし『主婦之友』記事資料集 石川武美記念図書館編刊 2023.04 109p 27cm 設立80周年事業 978-4-9903936-7-0 ¥8500 018.59

第4次新座市子ども読書活動推進計画（令和5年度～令和9年度）新座市立中央図書館編集 新座市 2023.03 57p 30cm 019

つながりあう力 官民協働で社会をつくる 村木厚子著 NPOブックスタート編刊 2023.04 51p 21cm（子ども・社会を考えるシリーズ 講演録） 978-4-902077-16-2 ¥770 599

絵本のなかの動物はなぜ一列に歩いているのか 空間の絵本学 矢野智司、佐々木美砂著 勁草書房 2023.02 304, 21p 20cm 978-4-326-85200-0 726.601



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

- 江別の図書館 2022年版 江別市教育委員会江別市情報
図書館 2023.03 29p 30cm
- 図書館要覧—豊かな時間を図書館で 令和4年度(2022年
度) 登別市立図書館 2023.02 46p 30cm
- ざまの図書館 令和3年度版(2021) 第44集 座間市立
図書館 2023.03 62p 30cm
- 新潟県の図書館 (2022) 新潟県立図書館 2023.02
113p 30cm



館報 協会報 機関誌

- 日本図書館協会—
- 現代の図書館 60(4) (通巻244) 日本図書館協会現代
の図書館編集委員会 日本図書館協会 2022.12 内
容:特集 図書館のデジタル環境におけるサービス
国立国会図書館によるデジタル化資料送信サービス
の概要と展望, デジタル環境を利用した大学図書館
の学習・研究支援 千葉大学アカデミック・リン
ク・センター/附属図書館の事例, 学校図書館にお
ける電子書籍活用の現状と課題 東京都立南多摩中
等教育学校の実践から, オーテピア高知図書館にお
けるデジタル化推進の取り組み, 「図書館における新
型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン (2022.
12.1更新版)」 更新のポイントと感染予防の考え方,
図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイ
ドライン 010.5
- 図書館雑誌 The Library Journal 117(4) (通巻1193)
日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館
協会 2023.04 内容:特集 コロナ後の図書館員の
学び・交流, 道具の手渡し方(窓), 図書館における
新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン更新
(NEWS), 『日本目録規則2018年版』PDF版を更新
(NEWS), 国際図書館連盟(IFLA) World Library
and Information Congress 第88回IFLA ロッテルダ
ム大会のご案内(NEWS), 中央教育審議会「次期教
育振興基本計画について(答申)」を取りまとめ
(NEWS), 内心の自由と組織的干渉(こらむ図書館
の自由), オンラインによる「中堅職員ステップアップ
研修」の現状と今後について, 社会教育実践研究
センターにおけるアフターコロナを見据えた図書館
司書専門講座の運営, 大学図書館職員長期研修 オ
ンライン開催を経て見えたもの, 集いのなかの研鑽
を続けるために コロナ禍前後のなごやレファレン
ス探検隊, 最近の図書館総合展実施への取り組みを

通して, 2023年度の図書館職員に関する研修につい
て(霞が関だより 233), 戦後図書館の草創期をい
ま, 問う, デジタルライブラリーを拡充中 公益財
団法人塩事業センター塩業資料室(ウチの図書館お
宝紹介! 230), 図書館員のおすすめ本 76, 『図書
館の使命を問う 図書館法の原点から図書館振興を
考える』(図書館員の本棚), 日本における大学図書
館職員の意識調査(報告), 声—各地の代議員から
2 010.5

- 図書館の自由 119 日本図書館協会図書館の自由委員会
2023.03 内容:第108回全国図書館大会群馬大会・
図書館の自由分科会より 研究協議 図書館の自
由・あなたの困った!をみんなで考えよう, 図書館
の自由・表現の自由をめぐる記事紹介(文部科学大
臣からの拉致問題に関する図書充実の協力等の要請
について, 那覇市立図書館へのサイバー攻撃(承
前), 旧統一教会関連資料, 少年事件記録の廃棄)
010.1

- 国立国会図書館—
- カレントアウェアネス 355 国立国会図書館関西館図書
館協力課編集 国立国会図書館 2023.03 内容:公
共図書館における電子雑誌提供サービス, ヤングア
ダルト世代と共に読書を考える試み:日本子どもの
本研究会「ヤングアダルト&アート・ブックス研究
部会」の活動, 図書館向けデジタル化資料送信サー
ビスへの北米からの参加の現状と今後への期待, 図
書館の所蔵又は貸出が出版物の売上に与える影響に
関する研究動向, 日本における図書館評価の現状—
既存の実態調査を基に 016.11
- 国立国会図書館月報 744 国立国会図書館 2023.04 内
容:『日本化学総覧』—日本の科学の発展に寄与した
科学文献抄録誌(今月の一冊 国立国会図書館の蔵
書から), 「スペインと中南米の子どもの本—この100
年の変遷と今(展示会関連講演), 法令議会資料い
ま・むかし—調査方法の変遷, 江戸時代の大酒飲み,
大食い(本の森を歩く 29), 未来の国立国会図書館
職員を迎えるために(館内スコープ), 『足元から紐
解く生活史 第34回企画展』(本屋にない本) 016.11
- レファレンス 868 国立国会図書館調査及び立法考査局
2023.04 016.11

- 協会報・館報—
- よむみる 4月号 (73) 366 恵庭市立図書館指定管理
者株式会社図書館流通センター 2023.03
- 図書館通信 令和5年(2023年)4月号 42(1) 503 登
別市立図書館 [2023]
- まなベル 生涯学習情報誌 2023年(令和5年)4月号
348 訓子府町教育委員会 2023.04
- ハトダヨ 函館市中央図書館だより 83 函館市中央図
書館 2023.04

情報図書館だより 396 江別市情報図書館 2023.04
 埼玉県立図書館だより 121 埼玉県立図書館広報委員会 2023.03
 図書館だより 467 新座市立図書館 2023.04
 としょかんこどもだより 156 新座市立中央図書館、福祉の里図書館 令和5年春号
 こすもす 市原市立中央図書館報 138 市原市立中央図書館 2023.04 内容：令和4年度利用者アンケート結果報告
 としょかんだより 葛飾区立図書館報 91 葛飾区立中央図書館 2023.03
 江東区立図書館情報誌 ことらいつ (2023春) 26 江東図書館 [2023.03] 内容：東雲図書館は改修工事に伴い長期休館いたします、ほか
 ひばり いなぎ図書館だより 202 稲城市立図書館 2023.04
 図書館だより 2023春 266 調布市立図書館 2023.03 内容：特集 「マンガ家・つげ義春と調布」展を開催しました
 らいぶらりい 八王子市図書館報 153 八王子市中央図書館 2023.04
 日野市立図書館報 ひろば 2023年4月号 284 日野市立中央図書館 [2023.04] 内容：日野ヤングスタッフ ブックパレード in 大坂上中学校
 図書館だより 124 町田市立図書館 [2023.04] 内容：図書館NEWS (トピックス) 2022年10月18日から電子書籍サービスが始まりました。
 図書館だより No. III (24) 武蔵野市立図書館 2023.03 内容：武蔵野プレイスの「アートライブラリートピックス」、ほか
 神図協会報 282 神奈川県図書館協会 2023.04 内容：特集 神奈川県図書館協会この1年の動き
 TOMTON LIBRARY NEWS 78 相模原市立図書館 2023.04
 はしもと図書館報 Hi! 82 相模原市立橋本図書館 2023.04
 いそしぎ 88 横須賀市立図書館 2023.03
 マーメイド通信 150 逗子市立図書館 2023.04
 新潟県図書館協会報 254 新潟県図書館協会 2023.01
 ソフィアだより 322 ソフィアセンター (柏崎市立図書館) 2023.04
 パピルス 上越市立図書館だより 301 上越市立図書館 2023.04
 図書館の窓から 長岡市立中央図書館館報 (2023春号) 180 長岡市立中央図書館 2023.04 内容：長岡市の移動図書館車 米百俵号の活動、ほか
 としょかんくん 長岡市立図書館子ども向け図書館情報誌 (はる号) 174 長岡市立中央図書館 2023.04
 読書山梨 山梨県立図書館報 153 山梨県立図書館 (か

いぶらり) 2023.04 内容：山梨県立図書館の貴重資料をご紹介！「徹底館資料」、新山梨県立図書館開館10周年記念事業
 静岡県図書館協会会報 81 静岡県図書館協会 2023.02 内容：令和4年度 第29回 静岡県図書館大会
 文化の丘 静岡県立中央図書館だより 373 静岡県立中央図書館 2023.02 内容：特集 静岡県立中央図書館デジタルライブラリー ふじのくにアーカイブで家康を検索してみた。
 かけがわ図書館だより 218 掛川市立図書館 2023.04
 つるっこつうしん大きい人むき 451-462 名古屋市鶴舞中央図書館児童室 2022.05-2023.04 付：つるっこつうしんちいさい人むき 451-462
 こんなほんあんなほん 小学生向き 2021年に新しく入った本から 2022年度版 「こんなほんあんなほん」作業部会編 名古屋市鶴舞中央図書館 2022.03
 こんなほんあんなほん for ティーンズ 2021年に新しく入った本から 2022年度版 「こんなほんあんなほん」作業部会編 名古屋市鶴舞中央図書館 2022.03
 会報 173 大阪公共図書館協会 2023.03 内容：第70回 (2022年度) 大阪公共図書館大会開催
 はらっぱ 36 大阪府立中央図書館『はらっぱ』編集チーム編集 大阪府立中央図書館 2023.03 内容：特集 児童およびYAサービスにおける広報
 としょかんだより 476-477 寝屋川市立中央図書館 2023.04-05
 しずく通信 228 猪名川町立図書館 2023.04 しずくつうしん for KID'S 168
 みんなの本だな 図書館だより 654 芦屋市立図書館 2023.04
 用瀬図書館だより 180 鳥取市立用瀬図書館 2023.04
 図書館だより 350 岩国市中央図書館 2023.04
 コトノハ (2023年3月号) 12 オーテピア高知図書館 2023.03
 沖縄県図書館協会誌 第26号 38 沖縄県図書館協会 2023.03 内容：特集 2022年、沖縄の図書館のできごと 沖縄県立図書館を数字で語る－図書館利用満足度や来館者数の分析より (知念秀明)、図書館に期待するホームレスの方への対応 (上原邦一)、久米島町複合型防災地域交流センター 防災施設としての図書館について (中島徹也)、第7回世界のウチナーンチュ大会における沖縄県立図書館の取り組み－ルーツ調査／Finding Okinawa Roots Projectを中心に (原裕昭)、名護市学校図書館司書部会の活動－司書の資質向上と「楽しい学校図書館」をめざして (島袋愛)、学びを支え、広げる学校図書館－那覇市立学校図書館 (真和志ブロック) における学習支援 (森田理恵)、知りたいをつくるしくみ－レファレンスサービスへの取り組み (呉屋美奈子)、コロナ禍で

の図書館サービスー沖縄県の公共図書館を対象とするアンケート調査より (宮良辰信・山口真也), 2022年度研修会報告 図書館資料の保存対策 (眞野節雄), 図書館司書が本を作ってみたらー『図書館司書32人が選んだ犬の本棚』(大城麻子), 南城市立図書館玉城分館がリニューアル移転しました! (津波古智子)

*

Book Mark 城西大学水田記念図書館報 161 城西大学水田記念図書館 2023.04

My CUL 41 中央大学図書館 2023.04 内容: 特集 ジョン・グールドの鳥類図譜 法学部図書館・専門職大学院図書室 OPEN

としょかんぼう 21 大谷大学図書館 2023.04 内容: 図書館のステンドグラスに込められたメッセージ

●機関誌・団体報

情報の科学と技術 73(4) 情報科学技術協会 2023.04 48p 30cm 内容: 特集 特別コレクションの整理と活用, 東洋文庫における特別コレクション (牧野元紀), 大学における寄贈資料の受入れと整理: 現代マンガ図書館と米沢嘉博記念図書館の事例 (森川嘉一郎), コレクション運用における連携・協力ー東京学芸大学教育コンテンツアーカイブを事例として (瀬川結美), 特別コレクションと外部資金の活用 (小嶋悦子), 文化的資源のデジタルアーカイビングとデジタル保存の概観 (杉本重雄), 「特許情報分析/解析/検索データベース」の連載に当たって (南山泰之), 『古代日本に於ける「図書館」の起源』『情報リテラシー (第4版)』(書評・新刊紹介) 007

図書館学 122 西日本図書館学会 2023.03 63p 30cm 内容: 鹿児島市立図書館における学生ボランティア活動の現状と課題ー鹿児島市立図書館の学生ボランティア活動例から (朝隈大鷹, 岩下雅子), 高等学校国語科における学校図書館との連携ー『山月記』の授業の取組みを通して (上釜千佳), 英語と日本語の絵本の日本語訳・英語訳についてー題名を中心に (倉光信一郎), 授業実践を通した図書館利用の現状と課題ー松江工業高等学校における英語多読の取組みを事例として (ハーヴィー佳奈), 公立図書館は裁判で「名誉棄損・プライバシー侵害図書」であると認定された所蔵図書をどのように考えて取り扱っているのか (安光裕子, 藪本知二), カオの見える社会で カオの見える図書館サービスをー図書館における利用者プロファイリングの必要性 (山本順一) 010.5

武蔵野大学司書課程・司書教諭課程たより 18 武蔵野大学司書課程・司書教諭課程研究室 2023.03 15p 26cm 010.7

青山学院大学 コミュニティ人間科学部紀要 コミュニ

ティ活動研究所報 4 青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ活動研究所 2023.03 60p 26cm 内容: 過疎地域における持続可能な図書館サービスの基盤 (大谷康晴) 010.7

図書の譜 明治大学図書館紀要 27 明治大学図書館 2023.03 173p 21cm 内容: 特集 図書館におけるリテラシー教育の在り方, 座談会 図書館におけるリテラシー教育のこれからについて考える, 基礎ゼミにおける生田図書館の出勤授業 (藤栄剛), フィンランドの図書館事情ー国立図書館を中心に (豊川浩一) 010.7

日仏図書館情報研究 46 日仏図書館情報学会 日本図書館協会 (発売) 2023.03 84p 30cm 内容: 日仏図書館情報学会創立50周年記念イベント「フランス国立図書館の電子図書館 Gallica の利活用推進・創出戦略」, 誰のために, 何のために, もっと開く?: 図書館による公共サービスとその担い手 (薬師院はるみ), 中山裕史著・中武香奈美編『幕末維新期のフランス外交ーレオン・ロッシュ再考』ーその内容と研究意義 (中武香奈美), フランス図書館関係と文獻目録 新追録10 (山形八千代, 清水裕子編) 010.7

中京大学図書館学紀要 43 中京大学 2023.03 73p 21cm 内容: 1963年から1965年の東愛知新聞に掲載された図書館・読書に関する記事について (村上由美子), 2021年度中京大学図書館年報 010.7

新史料協だより 28 新潟県歴史資料保存活用連絡協議会 2023.03 8p 30cm 内容: 資料保存の今後のあり方について 014.72

ヤングアダルトサービス研究会通信 282 ヤングアダルトサービス研究会 2023.04 10p 26cm 015.93

AJU 通信あけのほし 273 (通巻14834) ログス点字図書館 2023.04 8p 30cm 015.97

音ボラネット通信 全国音訳ボランティアネットワーク会報 48 全国音訳ボランティアネットワーク事務局 2023.03 20p 30cm 内容: 2023年度「全国音訳ボランティアネットワーク総会」開催について 015.97

文庫だより 240 天理教点字文庫 2023.04 10p 30cm 015.97

みんなの図書館 553 教育史料出版会 (発行) 2023.04 80p 21cm 内容: 特集 議会図書室入門 Part2, 議会シンクタンクと議会図書室 (牧瀬稔), 県議会図書室の日常業務と風景 (奥山智靖), 「町議会図書室」訪問記: 広島県の4町の議会図書室を巡る (石井保志), 議会図書室の図書館サービスと著作権との関係 (南亮一), 市民にとって図書館とは何だろうか (6・完)ー豊田市立図書館の今と, これからの考える (町田市立図書館との比較) (才津原哲弘), ダイバーシティ教育に背馳する分離すれども平等な? この国の

- 特別支援学校、特別支援学級－国連障害者権利委員会は、この国に‘インクルーシブ教育’を勧告したが…（山本順一）（図書館の生態系 22）、『司書名鑑』『図書館ウォーカー 旅のついでに図書館へ』（ほん・本・Book）、日本国憲法第九十七条のこと（column：図書館九条の会） 016.206
- しぶほう 424 図書館問題研究会神奈川支部 2023.04 8p 26cm 016.206
- ひらく 158 福島市の図書館を育てる市民の会 2023.04 8p 26cm 016.206
- 風 135 守谷の図書館を考える会 2023.04 4p 30cm 内容：図書館協議会報告 016.206
- 知恵の樹 275 町田の図書館活動をすすめる会 2023.03 8p 26cm 016.206
- 神資研 56 神奈川県資料室研究会 2023.03 70p 30cm 内容：特集 企業博物館の紹介、特別講演会 近年の著作権法改正の状況（福井健策） 016.206
- 神資研ニュース 549-550 神奈川県資料室研究会 2023.03 2冊 30cm 内容：(549) 文献複写の電子化著作権処理（電子入手・電子保存）について（第687回例会 講演会）、(550) 学術情報の歩み 学術雑誌の誕生からオープンアクセスまで（第688回例会 講演会） 016.206
- 図書館とともだち 218 図書館とともだち・鎌倉 2023.03 12p 30cm 添付資料：鎌倉市制100周年記念事業として『新 鎌倉市史』の編さんを求める陳情 内容：市史編纂事業の再開を求める陳情が採択されました 016.206
- 静岡図書館友の会会報 29 静岡図書館友の会 2023.04 8p 30cm 内容：新静岡県立図書館について静岡県教育長に要望書を提出 016.206
- 堺市の図書館を考える会会報 37 堺市の図書館を考える会 2023.03 6p 30cm 内容：2022年度末の府内図書館の概況 016.206
- こどもとしゃかん 177 東京子ども図書館 2023.04 29, xviii p 21cm 内容：特集 松岡享子さんに感謝する会 016.28
- 子ども図書研究室だより 104 静岡県立中央図書館 2023.02 [4p] 30cm 016.28
- こどもの図書館 70(4) 児童図書館研究会 2023.04 20p 26cm 016.286
- 児図研東京支部ニュース 442 児童図書館研究会東京支部 2023.04 8p 26cm 内容：2022年度児童図書館研究会全国学習会大阪学習会報告「変るもの・変らないもの～子どもと本をつなぐために～」 016.286
- 支部だより 438 児童図書館研究会神奈川支部 2023.04 10p 26cm 016.286
- Newsletter 山梨子ども図書館 71 山梨子ども図書館 2023.04 6p 30cm 内容：「子どもの本専門家」養成講座講師からのメッセージ 016.286
- こどもの図書館あいち 389 児童図書館研究会愛知支部 2023.03 [10p] 26cm 016.286
- いそまるだより 図書館・本：すてきな出会い 42-54 (2023/5・6) 大きなおうち 2023.04 30cm 内容：42号（2020年4月）～54号（2023年4月） 集積版 016.29
- 子どもと読書 459 親子読書地域文庫全国連絡会 2023.04 40p 21cm 内容：特集 コロナ禍4年目、子どもたちは 016.29
- 学校図書館速報版 2124-2125 全国学校図書館協議会 2023.04 2冊 26cm 内容：内容：(2124) オリエンテーションのための準備は？（教えて、先輩 Q&A）、(2125) 第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定、令和5年度司書及び司書補講習実施大学 017.06
- 学校図書館 870 全国学校図書館協議会 2023.04 88p 26cm 内容：特集 もっと使おう公共図書館－上手な連携に向けて、公共図書館と上手に連携しよう（小池信彦）、紹介します！支援担当の仕事（木村弘美）、資料の団体貸出について（大川可那子）、学校図書館セット貸出し（藤崎理恵子）、調べ学習の支援（田畑真琴）、「学校訪問」と「学校招待」（吉岡真和）、図書館見学の取組み（大畑真依）、司書部会で研修、情報交換（大橋留美子）、学校からの相談（間久美子）、本のPOP コンテスト（佐藤綾）、電子書籍貸出・閲覧サービス（池田朋之）、学校図書館支援センターの設置（永利和則）、バリアフリー資料の貸出し（間久美子）、『知的障害者への代読ボランティア養成講座テキスト』（役に立つ！Book Guide）、学校図書館政策を考える－(5) 関係者の説得と周知の方法（教育時評 294）（木内公一郎）、卓上たんぽぽ／バードウィーク／図書館のマナーとルール（おーたけーこ）、『学校図書館』創刊号を読む（野口武悟）、『学校図書館』創刊号（抜粋） 017.06
- 日本学校図書館学会静岡県支部会報 13 日本学校図書館学会静岡県支部 2023.03 17p 30cm 内容：第22回研究会（令和4年6月12日）、第23回研究会（令和5年1月28日）、県教委との懇談 学校図書館の整備充実の現状と課題について（令和4年11月7日） 017.06
- 本があって人がいる学校図書館を願う会ニュース 28 本があって人がいる学校図書館を願う会 2023.03 8p 26cm 内容：学校図書館充実に関する要望書（2022年11月11日 高松市長、高松市教育長宛） 017.06
- 図書館教育ニュース（付録） 1622-1624 少年写真新聞社 2023.04 3冊 26cm 内容：(1622) 日本十進分類法から始める学校図書館の活用 017.1
- 小学図書館ニュース（付録） 1290-1292 少年写真新聞

社 2023.04 3冊 26cm 内容：(1290) 子どもたちの良き「居場所」(＝第三の場)としての学校図書館の役割(特別寄稿)，(1292)ブックトークで伝えるSDGs 第1回 017.2

大学の図書館 42(2)-(4) 591-593 大学図書館研究会 2023.02-04 3冊 26cm 内容：(591)特集 足跡をたどる，(592)特集 図書館員最近のTips，(593)特集 新NACSIS-CAT/ILLのデータ移行作業に伴うNACSIS-CAT/ILLシステム停止，その時図書館は，新NACSIS-CAT/ILLのリプレイスに居合わせて(上村順一)，国立大学におけるNACSIS-ILLシステム停止時のILL対応についてのウェブサイト広報(今野創祐)，NACSIS-CAT停止の概要と対応記録(相澤裕介)，NACSIS-CAT/ILL停止時の一事例-ILLを中心に(有田真理子)，案ずるより産むが易し-ある小規模大学図書館のILL対応事例(中島慶子) 017.706

短期大学図書館研究 42 私立短期大学図書館協議会 紀伊國屋書店(発売) 2023.03 65p 26cm CD-ROM付 内容：短期大学図書館員の持つべき能力と今後獲得すべき能力(大城善盛)，日常の風景があるリアルアニメ(2008～2020)資料の奇跡2022(橋本典尚)，絵本が紡ぐフォークロア-現代絵本に描かれてきたもの(水野有子)，質の高い知識体系と学校図書館の活用-主体的な学び・対話的な学びで深い学びの実現を支える学校図書館(植原和彦)，図書館活用のための教員との連携(木下みゆき)，短期大学生への図書館サービス-私が経験した短期大学図書館の魅力(前川和子) 017.8

新潟県立文書館だより 38 新潟県立文書館 2023.03 4p 30cm 内容：令和4年度特別企画展「あなたの知らない文書館の世界-開館30年の歴史とイチオシ資料-」 018.09

医学図書館 70(1) 日本医学図書館協会 2023.03 59p [1-59p] 30cm 内容：特集 医療系大学・研究機関にある博物館・資料館，日本大学図書館歯学部分館における電子ジャーナルの選定方法：引用データを主要な指標として(堀米拓哉，高橋富久) 018.49

看護と情報 30 日本看護図書館協会 2023.03 73p 30cm 内容：踏襲 蔵書点検再考 看護図書館における蔵書点検，新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部におけるICタグによる蔵書点検の現状と課題，看護学校図書室における蔵書点検，図書館システムによる蔵書点検とその支援，業務委託で行う蔵書点検について：導入検討のために，UHF帯ICタグにおける蔵書点検：現在と未来，カメレオンコードを用いた蔵書点検：「スマート蔵点」による業務効率化 018.492

博物館研究 58(4) 659 日本博物館協会 2023.04 54p

30cm 内容：特集 「令和3年度博物館園数関連統計」 069

神奈川近代文学館 160 神奈川文学振興会 2023.04 10p 26cm 910

●出版・著作権

Bookstart Newsletter 2023春 80 NPOブックスタート 2023.04 4p 30cm 内容：特集 喜び，楽しみ，うまんちゅ(みんな)で～沖縄県3自治体の取り組みから～ 019

JRAC通信 101 JPIC読書アドバイザークラブ 2023.03 12p 30cm 内容：特集 印象に残った本 本のあーいきいき地方施設 学びの杜のいちカレード(石川県野々市市) 019

読書推進運動 665 読書推進運動協議会 2023.04 8p 26cm 付録：2022・第76回読書週間行事報告(68p) 内容：「つくる」・「読む」・「つなぐ」を一つところにおいて考える-より豊かな「つなぐ」のために(汐崎順子)，おはなし会のようなひとときで深い感謝と思いを松岡さんへ(東京子ども図書館「松岡享子さんに感謝する会」) 019

JASRAC NOW 日本音楽著作権協会会報 783 日本音楽著作権協会 2023.04 11p 30cm 021.23

JPIC NEWSLETTER 243 出版文化産業振興財団(JPIC) 2023.04 [2p] 30cm 023

アクセス 地方小出版情報誌 555 地方・小出版流通センター 2023.04 12p 26cm 023

出版クラブだより 出版クラブ会報 616 日本出版クラブ 2023.04 8p 26cm 023

大学出版 大学と社会を結ぶ 知のネットワーク 133 大学出版部協会 2023.02 30p 22cm 内容：「図書館あるある」から考えるデザインのこと(是住久美子) 023

子どもと科学よみもの 2023年4月号 530 科学読物研究会 2023.04 28p 26cm 023.09

こどもの本 49(5) 606 日本児童図書出版協会 2023.05 48p 21cm 内容：42社の新刊155点掲載 023.09

子どもの本棚 655 日本子どもの本研究会 2023.05 48p 21cm 023.09

日本古書通信 1125 日本古書通信社 2023.04 47p 26cm 024.8



図書館関係 雑誌記事索引

010.1 図書館の自由

内心の自由と組織的干渉 天谷真彦 (こらむ図書館の自由) 図書館雑誌 117(4) p183 2023.04

安心してください，入ってます 長谷川誠二 (北から南から) 図書館雑誌 117(4) p219 2023.04

010.21 図書館—日本—歴史

戦後図書館の草創期をいま、問う 竹内慈さんの新著2冊を読んで 塩見昇 図書館雑誌 117(4) p210-212 2023.04

010.59 図書館—統計

『日本の図書館 2022』出版 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p181 2023.04

010.6 日本図書館協会

「諦めるのは、まだ早い」「館種を超えた人脈づくりができる協会にしたい—私のことを知らない方は連絡ください」 鈴木崇文, 新屋朝貴 (声—各地の代議員から 2) 図書館雑誌 117(4) p213 2023.04

公益社団法人日本図書館協会2022-2025年度代議員 (個人・団体会員選出) 補欠選挙結果報告 日本図書館協会 図書館雑誌 117(4) p188 2023.04

図書館記念日・図書館振興の月のポスター完成 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p181-182 2023.04

図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン 公益社団法人日本図書館協会 現代の図書館 60(4) p210-220 2022.12

「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン (2022.12.1更新版)」更新のポイントと感染予防の考え方 岡部幸祐 現代の図書館 60(4) p207-209 2022.12

図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン更新 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p181 2023.04

010.6 国際図書館連盟 (IFLA)

国際図書館連盟 (IFLA) World Library and Information Congress 第88回 IFLA ロッテルダム大会のご案内 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p182 2023.04

010.6 図書館総合展

最近の図書館総合展実施への取り組みを通して 長沖竜二 (特集 コロナ後の図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p202-204 2023.04

010.7 研修 (図書館員)

2023年度の図書館職員に関する研修について 文部科学省 (霞が関だより 233) 図書館雑誌 117(4) p205 2023.04

オンラインによる「中堅職員ステップアップ研修」の現状と今後について 林友幸 (特集 コロナ後の図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p190-192 2023.04

社会教育実践研究センターにおけるアフターコロナを見据えた図書館司書専門講座の運営 悴田伸一 (特集 コロナ後の図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p193-195 2023.04

大学図書館職員長期研修 オンライン開催を経て見えたもの 大和田康代, 並木映李香 (特集 コロナ後の

図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p196-198 2023.04

集いのなかの研鑽を続けるために コロナ禍前後のなごやレファレンス探検隊 藤本昌一 (特集 コロナ後の図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p199-201 2023.04

特集にあたって 図書館雑誌編集委員会, 松本哲郎文責 (特集 コロナ後の図書館員の学び・交流) 図書館雑誌 117(4) p189 2023.04

011.2 図書館法

『図書館の使命を問う 図書館法の原点から図書館振興を考える』(塩見昇・山口源治郎著, 日本図書館協会) 末次健太郎 (図書館員の本棚) 図書館雑誌 117(4) p220 2023.04

013.8 図書館事務の機械化

オーテピア高知図書館におけるデジタル化推進の取り組み 山重壮一 (図書館のデジタル環境におけるサービス) 現代の図書館 60(4) p200-206 2022.12
学校図書館における電子書籍活用の現状と課題 東京都立南多摩中等教育学校の実践から 杉山和芳 (図書館のデジタル環境におけるサービス) 現代の図書館 60(4) p191-199 2022.12

国立国会図書館によるデジタル化資料送信サービスの概要と展望 木村祐佳, 高峯康世 (図書館のデジタル環境におけるサービス) 現代の図書館 60(4) p171-180 2022.12

デジタル環境を利用した大学図書館の学習・研究支援 千葉大学アカデミック・リンク・センター／附属図書館の事例 武内八重子, 粒来珠佑 (図書館のデジタル環境におけるサービス) 現代の図書館 60(4) p181-190 2022.12

014.3 資料目録法

『日本目録規則2018年版』PDF版を更新 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p181 2023.04

016.11 国立国会図書館

国立国会図書館, 「国立国会図書館デジタルコレクション」収録の図書・雑誌等約32万点を図書館向け／個人向けの送信対象に追加 (NEWS) 図書館雑誌 117(4) p182 2023.04

016.2136 公共図書館—東京都

中野区立中野東図書館 (東京) 平田陽一 (新館紹介) 図書館雑誌 117(4) p187 2023.04

瑞穂町図書館 (東京) 西村優子 (新館紹介) 図書館雑誌 117(4) p187 2023.04

港区立三田図書館 (東京) 門康治 (新館紹介) 図書館雑誌 117(4) p187 2023.04

016.2163 公共図書館—大阪府

松原市民天美図書館 (大阪) 下山紀美 (新館紹介) 図書館雑誌 117(4) p187 2023.04

016.2182 公共図書館—香川県

善通寺市立図書館（香川） 丸濱晃一（新館紹介） 図書館雑誌 117(4) p187 2023.04

017 学校図書館

道具の手渡し方 大作光子（窓） 図書館雑誌 117(4) p180 2023.04

017.7 大学図書館

日本における大学図書館職員の意識調査（報告） 日本図書館協会図書館調査事業委員会課題調査委員会，岸田和明〔文責〕 図書館雑誌 117(4) p206-209 2023.04

028 紹介本

『きょうから使おう英語で熊本弁 in English』『宇沢弘文 新たな資本主義の道を求めて 今を生きる思想』『みんなが手話で話した島』『トランスジェンダー問題 議論は正義のために』 芥川奈緒美，大塚敏高，佐藤真紀，穂積絵理子（図書館員のおすすめ本 76） 図書館雑誌 117(4) p216-217 2023.04

090 図書館資料

デジタルライブラリーを拡充中 公益財団法人塩事業センター塩業資料室 大庭剛司（ウチの図書館お宝紹介！ 230） 図書館雑誌 117(4) p214-215 2023.04

210.07 郷土研究

デジタル時代の地域史研究必携づくりを 天谷真彰（北から南から） 図書館雑誌 117(4) p218 2023.04

373.2 教育行政

中央教育審議会「次期教育振興基本計画について（答申）」を取りまとめ（NEWS） 図書館雑誌 117(4) p183 2023.04

協会通信

常任理事会

日時：4月27日(木) 14:00~16:00

会場：日本図書館協会504会議室、
Web会議（Webでの出席は「W」と記載）

出席常任理事：植松貞夫（理事長）、
鈴木隆（副理事長）、海老根裕（専務理事兼事務局長）、高橋正名（専務理事）、岡部幸祐（常務理事兼事務局長）、成瀬雅人（常務理事：W）、西村七夫（常務理事）

列席理事：関根美穂（国立国会図書館：W陪席）、大谷康晴（図書館情報学教育部会：W）、中山勝文（公共図書館部会）、白濱博人（大学図書館部会：W）、深水浩司（専門図書館部会：W）、高橋恵美子（学校図書館部会：W）、松尾昇治（短期大学・高等専門学校図書館部会：W）

列席幹事：中山司朗（W）

*

1. 会議成立要件の確認

海老根専務理事兼事務局長（以下「事務局長」という）より、議事に先立って、会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し、出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

国立国会図書館理事については4月1日人事異動により山崎幹子理事の後任理事候補として関根氏が陪席している。6月の代議員総会までの対応である。

2. 開会宣言・理事長挨拶

植松理事長（以下「理事長」という）より挨拶の後、開会が宣せられた。

事務局の人事異動について報告する。3月まで常務理事兼総務部長の岡部幸祐氏が総務部長の兼務を離

れ、常務理事兼事務局次長となる。事務局を担当する総務部長曾木聡子氏が参加となる。

*

〈協議・報告〉

1. 資料保存委員会規程の改正について

事務局長より資料に基づき説明があった。改正理由としては、①各地での講習等への講師依頼が増えていること、②委員が全員仕事に就いており、同じ委員が続けて講師を担当することは難しいこと、③講師を引き受けることが出来る技術を持った人物を新たに委員として迎え、全国からの講習会の依頼に応えたいとの理由により、第3条「組織規程の委員を10名から12名に変更したい」とする。5月の理事会で議題とし決定の後、施行する。

2. 代議員定数等検討委員会報告について

代議員定数等検討委員会は昨年3月31日をもって終了しているので、事務局を担当した岡部常務理事兼事務局次長（以下「事務局次長」という）より説明があった。

委員会は、7月4日～3月28日まで計10回の委員会を開催した。「4. 定款第13条と代議員の選出方法に関する問題の本質と経緯」では、定款第13条と代議員選挙規程の齟齬について説明され、定款から割り出す数字と現状の代議員数に隔たりがあるのは、代議員選出の具体的ルールが「代議員選挙規程」ではほぼ決められているということが原因としてあげられている。また、定款第13条1項にある「概ね100人の中から1人」であるが、本法人の場合は個人と施設及び団体の二つの会員種別があるため

単純ではなく、定款と選挙規程で合わせて運用するという考え方が取られたとしている。

「5. 代議員の役割について」では、代議員総会の役割の他、代議員の役割として、「会員を代表して協会の活動に責任を負うものである。また、個人選出代議員には会員と協会を結ぶ重要な役割がある。地域の状況や意見を協会に伝え、協会の活動に反映させていかななくてはならない。」とされている。また、「「地域」とは、図書館やそのネットワークの状況などから、都道府県を単位とすべきことは明確である。」とされている。

これらを踏まえて、委員会が考える望ましい代議員の選出方法として、次の四つがあげられ、これを実現する定款の改正案及び代議員選挙規程の改正案が提案されている。

①定款で代議員の数が分かるようにする（70名以上100名以下）

②個人選挙区は、都道府県を選挙区として、各選挙区に1名の代議員を置く。また、100人ごとに代議員を1名追加していく。

③施設等代議員は、部会と団体を選挙区として、各選挙区に1名の代議員を置く。また、100人ごとに1名の代議員を追加していく。

④選挙区と、選挙区ごとの代議員の数は、代議員総会の承認を必要とする。（もしくは、それと同様の結果になるようにする）

定款第13条等の修正提案では、代議員の選出は選挙区単位で行い、選挙区ごとに1人の代議員を置き、以後正会員100人を超えるごとに代議員1人を追加する。個人会員の選挙区は都道府県とする。施設等会員の選

挙区は本協会の活動部会及び団体の区分によるものとする、としているが、「選挙における得票数が3に満たないものは代議員になることができない。」とされた。その他、第14条及び第15条も修正案が提示されている。

選挙規程については、定款の改正に基づいた修正案が提案されている。

個人・施設・団体選挙区間の一票の格差については、選挙区ごとに最低1名の代議員を置くという原則が重要で、それは一票の格差よりも優先されるとされ、「7. その他、関連項目への委員会からの所見」では、(1)代議員総会の形骸化の危機、オンライン方式の会議開催、(2)個人会員減少への対応としての代議員の役割、(3)代議員選挙の改革（選挙人、立候補状況等の明確化）、(4)団体会員の問題があげられている。

深水代議員定数等検討委員会委員会開催時副委員長からは、特に補足はないが、細かいところもあるので、現状の定款と選挙規程とあわせてご覧いただきたいとの発言があった。理事長：委員会から提出されたものである。理事の皆さまにはこれを熟読していただきたい。

3. 代議員定数等検討委員会の期間延長について

理事長より説明があった。委員会開催時の佐藤委員長から、「主に今後提言を受けて、定款の改正、選挙規程の改正に進むが、法律家のチェックを得る際に、報告書の内容等の若干変更する場合もあるので、委員会を延長したい。」という申し立てがあった。同時に、後世の再改定の際に、今回の検討結果が検証されることから、もう少し記述を精細に行っていただくため、委員会をもう少し存続させ、検討を進めたい。理事の皆さまにも資料について、ご覧いただいたうえで、検討を深めたほうがいい点、ご意見につ

いて、事務局あてにご意見いただきたい。提案の文章について、しかるべき日にちを設定し、理事会決定としての「代議員定数等検討委員会の検討延長について」を、理事会決定を経たのちに、委員会のみなさまに、期間延長として、検討を加えていただくことにしたい。連休明け頃までにご意見をメールでお知らせいただきたい。延長することについて、次回理事会でお諮りすることにしたい。〈主な意見など〉

大谷：進め方に異存はない。定款を変える代議員総会をどこかで開催となると思うが、そこまで委員会を担保しなくてもいいか。半年としても期間の見込みは大丈夫か。

理事長：内閣府への変更申請は、特に審査ではない。委員の皆様にも伺ったがあと1年は長すぎる。定款の改正については、代議員選挙に関わることであるが半年くらいで検討していただき、来年の代議員総会で検討していただく予定としたい。

高橋（恵）：検討延長についての文章について、2番目、最低得票数の部分が、前のWGのときも、最低得票数3は守っていきこうという話で進んでいたし、今回も進んでいたと思う。今回は、1名であっても代議員にすべきではないかということにびくりしている。それを再検討してほしい、ということなのか、と素朴に疑問に思っている。

理事長：言い方がきついということではないか。

事務局次長：定款に記載すること、説明できるようにしておくことが必要である。

高橋（恵）：その場合、説明をする相手というのは内閣府を想定しているか。

事務局次長：内閣府の公益認定等委員会となる。

理事長：公益認定の窓口で定款を改

正するということについて説明する。代議員は会員の代表であり、都道府県選挙区ごとに1人を置くということでもある。地域との格差は優先されると言っておきながら、1人しかないことはダメということは論理的に矛盾しているので、その部分について記述を補ってほしいということである。

深水：この件について、委員会について時間をかけて検討してきた。まずは説明を読んで、延長をしていただければ、検討していただきたい。文言の部分、やや気になっているところもあるので、検討が可能であれば、検討したい。

大谷：選挙成立の要件は、選挙区の設定とは別のロジックとして検討してはどうか。それも含めて、最低得票数に達しない状況が定常するようになれば、検討しなおさなければならないが、私的自治の範囲でこうしたとすればいいのではないか。

理事長：深水理事のご指摘も含めて、みなさまにあらためてお読みいただき、記述についてもご意見をいただき、お寄せいただきたい。

4. ユネスコ公共図書館宣言2022 日本語訳の公表について

鈴木副理事長（以下「副理事長」という）より、国際交流事業委員会からこのことについて提案があった。1994年に採択された宣言、その後書き足されているが、前回1994年は長倉美恵子先生に翻訳していただき国際交流事業委員会で確認して、協会として位置付けたといういきさつがある。もともとの翻訳は長倉先生が対応しており、それを活かした形で、今回、永田治樹先生が翻訳し、それを委員会が確認したというものになっている。性別をジェンダーと変更、蔵書をコレクション（蔵書）、デジタル的な記述が追加され、図書館の役割、教育を受けることについて

も新たな記述がある。項目としても書き加えられている。永田先生、国際交流事業委員会でも確認していたが、協会として位置付け、『図書館雑誌』でもお知らせをする。今回常任理事会で確認し、理事会でも報告したい。詳細については、『図書館情報学基礎資料』にも掲載があるので見比べてお読みいただきたい。(主な意見など)

理事長：24ページ6行目にあるように、クレジットとしては、「長倉美恵子・永田治樹・日本図書館協会国際交流事業委員会 訳」としたいと思う。

高橋 (恵)：最近の図書館政策企画委員会で、ユネスコ公共図書館宣言の訳文について、話題になったばかりで、図書館政策企画委員会にもこの情報を提供していただきたい。もう一つ、図書館政策企画委員会の事業として、図書館政策資料『学校図書館関係資料』が2015年以降出ていない。現在作業をしているが、IFLAの学校図書館宣言が出ていて、この訳文がどうなっているかについて確認したい。2022年度の事業として学校図書館関係資料をまとめている。「学校図書館宣言」の訳文を載せたいと思っている。IFLAからの確認返信があれば、差し替えて掲載したいと思うがいかがか。

副理事長：IFLAの回答待ちというのはお伝えしている。前回の1999年のものについては、長倉先生が関わっていて、長倉氏、堀川氏の共訳として扱っている。現在の翻訳はIFLAに確認中である。個人訳の訳文を載せるということを明記していただければよい。

高橋 (恵)：説明を明記したうえで、載せるとするならば個人訳で掲載して進めたい。

理事長：日本語訳の取り扱いについては、承認いただいたとして、理事

会には報告事項としたい。図書館政策企画委員会にも情報提供する。

5. 新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付け変更後の基本的感染対策の考え方について

事務局次長より、資料に基づき説明があった。5月8日をもって協会から出しているガイドラインも廃止となる。今後については、厚生労働省の資料等を踏まえて、各図書館で判断して感染対策を必要に応じて実施していくことになることのご案内を協会HPに掲載する。

理事長：「業種別ガイドラインは廃止となる」とあるが、図書館は感染については比較的安全な場所と認識されていることもあり協会としては独自の手引書を作成することはせず、各図書館の判断に委ねたいと思う。各地の図書館からの問い合わせもあるので、HPでその旨を公表することとしたいと思う。

6. 委員会委員の承認について

以下の委員について承認された。

研修事業委員会については、次の委員長を協議中。

(1) 図書館雑誌編集委員会

【退任】 小竹 毅郎 (国立国会図書館)

【新任】 宇野 亮一 (国立国会図書館)

(2) 現代の図書館編集委員会

【退任】 高野 雄大 (国立国会図書館)

【新任】 赤穂 知郁 (国立国会図書館)

(3) 図書館年鑑編集委員会

【退任】 山崎 幹子 (国立国会図書館)

【新任】 関根 美穂 (国立国会図書館)

(4) 研修事業委員会

【退任】 林 友幸 (富士見市役所)

* 委員長

【退任】 熊野 清子

【退任】 嶋田 学 (京都橋大学)

【退任】 西尾 恵一 (大阪府立中央図書館)

(5) 認定司書事業委員会

【退任】 石原 真理 (実践女子大学)

【退任】 府川 智行 (東京大学本部)

【新任】 澤谷 晃子 (大阪市立中央図書館)

【新任】 二瓶 優 (福島県立福島商業高等学校)

(6) 資料保存委員会

【退任】 樋口 早苗 (国立国会図書館)

【新任】 小野 智仁 (国立国会図書館)

(7) 目録委員会

【新任】 三村 千明 (国立情報学研究所)

(8) 国際交流事業委員会

【退任】 廣瀬 淳哉 (国立国会図書館)

【新任】 加藤 祐平 (国立国会図書館)

(9) 図書館施設委員会

【退任】 叶多 泰彦 (元市川市立中央図書館)

【新任】 上岡 真士 (高知県立図書館)

(10) 児童青少年委員会

【退任】 川上 博幸

(11) 健康情報委員会

【退任】 佐藤 晋巨 (聖路加国際大学学術情報センター図書館)

(12) 図書館災害対策委員会

【委員長退任】 西野 一夫

【委員長新任】 末次健太郎

(13) 図書紹介事業委員会

【新任】 渡邊 桂子 (高知県立図書館 (オーテピア高知図書館))

(14) 図書館運営委員会

【退任】 堀川 照代

【新任】 米澤久美子 (東京都教育庁都立学校教育部高等学校教

育課)

7. 後援名義等の応諾について

以下の後援9件について承認した。
・はむねっと発足2周年 ハイブリッド集会「動かしてきたこと・見えてきた課題・あきらめずに声をあげよう！」(公務非正規女性全国ネットワーク (はむねっと))

・「上野の森 親子ブックフェスタ2023」(「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会)

・「谷内こうた展 風のゆくえ」(公益財団法人いわさきひろ記念事業団)

・「ちひろ美術館コレクション2010→2021 日本の絵本展」(公益財団法人いわさきひろ記念事業団)

・シンポジウム「公共図書館はどう伝えられているか〜新聞ジャーナリズムと市民〜」(図書館友の会全国連絡会)

・「第55回日本子どもの本研究会全国大会」(一般社団法人日本子どもの本研究会)

・「第23回家の光読書エッセイ」(一般社団法人家の光協会)

・「第20回家の光読書ボランティア養成講座」「第17回家の光読書ボランティアスキルアップ講座」(一般社団法人家の光協会)

・「第25回図書館総合展2023」(図書館総合展運営委員会)

8. 寄附金について

以下の寄附金について、確認し承認した。

・2023年2月3日〜2023年3月31日入金分

一般寄附金27件	372,733円
指定寄附金1件	3,000円
合計	375,733円

チャリボンによる寄附も含まれており、会員以外からの寄附も入っている。

事務局次長：チャリボンについては3月に災害復興支援キャンペーンを

実施しているが、今回のリストには含まれていない。4月以降の入金となるので、次回以降の常任理事会でお示しすることになる。

9. 元理事長からの寄附金の受入れについて

ご遺族と元理事長を囲む会の3名から、元理事長のご遺志を活かして1000万円の寄附をしたいとお申し出があり、一括して受け取ることにについて承認した。

事務局長：使いみちについての考え方、素案の提案があり、意見を募って、引き続き検討することとなった。秋頃の理事会にはお諮りして、進めたい。寄附金を受けることについては、常任理事会での承認事項なので、素案を含めて寄附者と進めたい。

10. 新入会員の承認について

以下について、総務部長より資料に基づき説明があり、確認して承認した。

・2023年4月現在

個人会員A 8名

個人会員B 7名

4月なので、異動退職等で退会者が多くなっている。都道府県別の状況をみると都市部で多くの方が退会されている状況である。

11. 報告事項

(1) 2023年度部会活動費(予算)について

事務局長より資料に基づき報告があった。

高橋(恵)：前年度に学校図書館部会への寄附金があり、改めて金額を連絡すると事務局長が言われていたが、いつ頃連絡があるか。それにあわせて事業計画等を企画したいと思う。

事務局長：決算中なので、近々お知らせするつもりでいる。

高橋(恵)：使ってくださいという理解でよいのか。

理事長：それを見込んで活動を組み

立てていただけるということをお願いする。

(2) 「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」のヒアリングについて

理事長より、議員連盟の動きについて説明があった。長い歴史のある議員連盟だが、昨年度から活動が活発になり、書店を元気にするということについて、2023年度の「骨太の方針」に何らかの提言をしていきたいとしている。このなかでは書店が危機的な状況を迎えている原因として図書館の過度な複本購入等があげられ、図書館がベストセラーの複本を大量に購入しているのではないかと、地域書店から仕入れていないのではないか、ということの問題としている。2023年4月12日に開催された議員連盟幹部会で、日図協、TRC、JPICの3者が別々にヒアリングを行い、5名の議員に対して説明した。本協会は質疑込みで10分の予定が40分になった。一部の議員からは、図書館は学術研究や教養向上のための本を利用させる場であればよい、とあったが、我々としては図書館法上、レクリエーション等に資することも述べてきた。議員からは「失礼ながら図書館は案外きちんとしているではないか」という感想があり、いかに議員が図書館に対して古いイメージを持っているかを認識した。議員の認識を改善することは難しいかと思った。議員連盟は28日に総会を開き、何らかの結論をまとめていく予定のため、昨日、塩谷立議員のところを訪問し、あらためて詳細について説明をした。図書館の現状をご理解いただくため、例えば新しい図書館を見学してほしいということを申し入れてきた。国内で四分の一の自治体に書店がない状態は図書館でも好ましい状態ではないので、図書館と地元書店がともに繁栄

できるように、図書館関係者、書籍出版関係者、書店、文部科学省とで対話の場を設ける等して協議を進めていきたいことを表明し、提言に図書館を悪者にするような記述がないように強く申し入れてきた。先行きについてただちに申し上げることはできないが、議員連盟について今後注目していきたい。

〈主な意見など〉

成瀬：日本図書館協会の説明としてはさきほどのような内容をお伝えしていくしかない。図書館にターゲットが向いてはいるが、実は書店が絶望的な状況になっていることが問題の中心であるはずなのに、テーマ設定がいびつな構造になっていて、忘れたところに図書館に火の粉が飛んできている。対決軸としてではなくて、腹を割って話し合いを継続していくことが重要だと思う。

大谷：文化を守るために出版産業は特別な措置、保護を受けていることはあったのだから、もう少し図書館が大口の購入者として、妥当な範囲として、検討されてもいいのではないかな。見えないせいで一部のところが歪んでいるのではないかということに気にしている。

理事長：自治体としては、住民とすれば、図書館ができるだけ本を安く購入し、バラエティと数が増えればということが望ましいが、利害が違っているということである。ご意見、ご質問は事務局まで寄せていただきたい。

(3)「図書館非正規職員の処遇についてのお願い」について

理事長より、鹿児島県指宿市立図書館における指定管理に端を発する非正規職員の問題について説明があった。2月12日のNHK「おはよう日本」の取材で、指定管理料が低すぎるため職員の賃金に及び、職員の生活が厳しいということを報じた。

指定管理料の上乗せが必要ではないか、図書館に対して協会として働きかけが必要では、という意見が寄せられたことから検討した。指定管理制度については応募要項が作成され、そこに条件が記載され、指宿市の指定管理者が名乗りをあげ、議会から指定を受ける、というプロセスをたどっている。そういうことから、幅広く、図書館非正規職員の処遇について、自治体首長にアピールするとともに主要なメディアに訴えていきたいとして、理事長名、非正規雇用職員に関する委員会委員長名で文書を作成した。これを自治体の首長に送付するとともに、プレスリリースする。

〈主な意見など〉

中山（勝）：日程的には、いつ頃に首長に通知するのか。

理事長：本日報告して速やかに。

中山（勝）：なぜこの時期にと思ったので、予算の時期でもないの。

理事長：2月12日のNHKの話から始まっているので、既に遅いが出るだけ早く考えている。

中山（勝）：夏くらいまでに出すのでよいのではないかな。

理事長：7月頃がよいかな。

高橋（恵）：できれば話題になっていた直後にせればよかったが、そんなに先になってしまうと、またタイミングが悪い。先にやるのであれば、このタイミングで1回出しておいで、7月頃にもう1回出してはどうか。予算編成期には予算編成用に、違う形の要望になるかわからないが、非正規雇用職員に関する委員会としてはその方がありがたい。

理事長：検討させてほしい。

成瀬：この問題はずっと続いている問題で、みんなで解決していかなければならないものである。直接のきっかけになったのは、指宿の件なので、もう一度NHKに報道しても

らうことも必要。予算時期も重要だが、全国で苦勞されている図書館のスタッフの方に加え、さきほど大谷理事から文化を支えるという話もあったが、書店を支えているのも非正規労働者で、最低賃金で働いている方が多い。これは文化国家として恥ずかしいことであることを言い続けていくことも必要。アピールして起爆剤として続けていくことは大事である。

理事長：プレスリリースを先にすることも考えたい。

深水：おふたりに賛成。プレスリリースも早めに。NHKにも追取材してもらいたいとのスタンスもあっていい。もう一点、指宿の件、当時の約束通りやっていくべきだということだが、社会に大きな変化があった場合に、再度自治体でも検討するべきということも入れて、柔軟性をもたせた指定管理者の契約もありかと思う。意見である。

理事長：指定管理についての総務省のひな型では、モニタリングによって、要求水準を上回るサービスが提供されていれば、インセンティブを増強させるということがある。実際には多くの自治体では5年なら5年の間に、経費が増えることが好ましいことと考えていない。インセンティブ条項が含まれていない。この部分について協会として言えるかどうか難しい。次回常任理事会でも報告するが、扱いについては進めていく。

(4) 日本図書館協会図書館（日図協図書館）OPACの公開について

総務部長より図書館OPACについて報告があった。協会HPの「事務局事業」に日図協図書館の項がある。図書館の利用については記載があるが、実際に図書館の資料について検索が不十分であった。長きにわたってデータが構築されており、図書館

システムについても検討してきた。5月15日から、図書館資料について検索可能となる。資料室資料検索については削除し、新しくOPAC画面を展開する。当初は一部の資料のみからスタートするが、書名、著者名、フリーワードから検索可能で、新着資料、お知らせも載せていく。日本図書館協会が何をしているかわからない、ということと言われることがあるが、協会の図書館に図書館員に有効な資料があることがわかれば付加価値が付いていくのではないかと考えていて、期待している。HP、メールマガジンで広報していく。

12. その他

(1) 全国図書館大会について

副理事長より、全国図書館大会実行委員会について資料に基づき説明があった。会長は県知事、副会長は、盛岡市長と当協会理事長。実行委員会委員長は教育長、副委員長は岩手県立図書館長、盛岡市立図書館長と当協会副理事長の3者で構成される。盛岡市立図書館は今年度は工事のため休館中。委員としては学校図書館、大学図書館からも出ている。

開催テーマは「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」となった。記念講演は「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」で、研究者の立場から図書館を検証していただく。

分科会については実行委員会では案として提示されたが、会場の調整中である。

*

最後に理事長より、先ほどの代議員定数等検討委員会の期間延長について、報告書の内容等、ご意見をお

寄せいただきたいと申し上げたが、5月8日までにはお願いしたいとの発言があった。

*

・今後の予定

・2023年度通算第2回（定時第2回）常任理事会（Web会議）

日時：2023年5月11日（木）13時30分から

・2023年度通算第1回（定時第1回）理事会（Web会議）

日時：2023年5月25日（木）13時30分から

事務局カレンダー

*○印の日が事務局のお休みです。

■2023年6月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	12	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	23	⑳
㉑	26	27	28	29	30	*

■2023年7月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	*	①
②	3	4	5	6	7	⑧
⑨	10	11	12	13	14	⑮
⑯	⑰	18	19	20	21	㉒
㉓ ㉔	㉕ ㉖	25	26	27	28	㉙

編集手帳

今月号は、図書館のリニューアルを特集のテーマとしました。従来からの施設のメンテナンスに係る「改修」と「リニューアル」は、何がどう違うのか。今号に寄せられた論考を見ていきたいと思います。

中井氏（当協会図書館施設委員会委員）からは、図書館建築におけるリニューアル事例として、4館を対象に行ったヒアリングの報告をもとに論じられています。建築的なポイントとして、施設の長寿命化や機能性・利便性の向上といった観点から、

従来行われてきた「増築」や「改修」を整理し、図書館の建築も「成長する有機体」だとして、図書館職員と設計者との目標共有と協働の重要性、利用者の日常的な利用状況やニーズの把握といった、図書館リニューアルの注意点を述べられています。続いて、松本氏からは、公共施設の「総合管理計画」の観点から、図書館の大規模改修（リニューアル）に関して論じられています。社会教育施設における従来の改築中心から「長寿命化改修」への視点の転換、現状回復と違い、その時点における社会的要求水準を上回るような機能向上が目的だと述べられています。

次に、リニューアルの具体例として三つの論考が寄せられました。穂村氏は、我孫子市民図書館の防水劣化による雨漏りなど、施設管理と保

全に苦慮した状況を取り上げ、利用者と職員が安全で安心して使える施設には、公共施設保全計画と各施設別に長寿命化計画（メンテナンス計画）策定が重要と述べられています。また、松岡氏は、松阪市松阪図書館の建物の改修と同時に、利用者の利便性を図った機器類の導入による利用動向の変化を述べられています。さらに、三浦氏からは、杉並区立中央図書館のリニューアルへの取り組みとして、幅広い層の区民と意見交換を行い、時代のニーズを反映した機能整備の実践の諸相に関して述べられています。

今回、図書館という施設の地域的・空間的な現在を反映した論考が寄せられています。まずは論考そのものをご覧ください。（中村保彦）

図書館雑誌／7月号予告 (Vol.117 No.7) 定価1026円 7月20日発行予定

特集：図書館の話題アラカルト 内容＝国立国会図書館のオンライン資料収集制度について（平田紀子）、地域課題は公共図書館の在り方（下吹越かおる）、ポーラ文化研究所のオンラインサービス（富澤洋子）、きみも大学図書館で働いてみないか－仕事の魅力を伝え、志望者のすそ野を広げるには（伊原尚子ほか）、「シリアスボードゲームジャム」を図書館で行うことの可能性（太田和彦）、学校図書館充実のための各地方自治体における適切な予算措置について（公益財団法人文字・活字文化推進機構）。以上特集のほか、〈ウチの図書館お宝紹介！③④研医会図書館〉東洋医学と西洋医学を見比べることのできる文庫（安部郁子）、〈小規模図書館奮戦記③④沖縄工業高等専門学校図書館〉コロナ禍中と図書館運営について－実務面での感染症対策と利用者サービスの共存（比嘉信）、〈IFLA ロッテルダム大会へのおさそい②〉寛容とエクイティの国の図書館（永田治樹）、〈声－各地の代議員から⑤〉等の連載記事を掲載してお届けします。